

デジタル田園都市国家構想交付金

デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化する観点から、「デジタル田園都市国家構想交付金」により各地方公共団体の意欲的な取組を支援

地方創生推進タイプ

▶ 観光や農林水産業等の地方創生に資する取組を支援（ソフト事業）

交流人口の拡大



農産物の
生産・流通拡大



地方創生拠点整備タイプ

▶ 観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備などを支援（ハード事業）

文化施設



交流拠点



子育て支援施設



デジタル実装タイプ

▶ デジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費などを支援

書かない窓口



遠隔医療



地域アプリ



Copyright © 2025 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

デジタル田園都市国家構想交付金 事業一覧

■ 地方創生推進タイプ

No	施策名	年度
1	文化芸術に新たな息吹を吹き込む佐賀さいこうプロジェクト	R 6～8
2	社会増加県へ 子育てし大県 “さが” × DI人材育成・地元循環モデル構築 プロジェクト	R 6～8
3	SAGAの未来を支える担い手確保プロジェクト	R 5～7
4	未来創造型のチャレンジ研究を主軸とした大学連携推進事業	R 5～7
5	まちの変化を力にした地域内外の交流拡大・地域の賑わい創出プロジェクト	R 3～7
6	唐津エリアの未来を紡ぐ唐津プロジェクト推進事業	R 4～6
7	佐賀の本物の魅力醸成・発信プロジェクト	R 4～6
8	JAXA連携を活かした宇宙関連産業創出、人材育成事業	R 4～6
9	歩くライフスタイルの推進によるまちの賑わい創出・地域活性化プロジェクト	R 4～6
10	SAGAアリーナを核とした交流人口増加と地域活性化事業	R 4～6
11	稼げる “さが” 農業推進プロジェクト	R 4～6
12	SAGAスポーツピラミッド推進プロジェクト	R 2～6
13	高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト	R 2～6
14	佐賀県地方創生移住・地域活性化等起業支援事業	R 1～6
15	プロフェッショナル人材戦略拠点事業	R 5～9
16	佐賀県女性就業支援事業	R 3～6

■ 地方創生拠点整備タイプ

No	施策名	年度
1	吉野ヶ里をアウトドアの聖地へ～官民連携による新たな自然体験、交流拠点施設整備【吉野ヶ里歴史公園】	R 6
2	JAXA連携を活かした文化観光施設の磨き上げに伴う地域活性化・人材育成事業	R 5
3	ICTを活用した「佐賀牛」の生産教育施設整備事業	R 4
4	北山湖エリア自然体験施設再整備事業	R 4
5	くすかぜ広場再整備事業	R 3

■ デジタル実装タイプ

No	施策名	年度
1	アバンセ施設予約システム導入事業	R 6
2	スカイパトロール監視事業	R 6
3	マイナンバー提出のオンライン化事業	R 6
4	建設DX加速化事業費補助事業	R 6
5	SAGAキャッシュレスチャレンジ事業	R 6
6	SAGAスマート漁業実装支援事業	R 6
7	サガンスギの森林100年構想事業	R 5
8	佐賀 Civil Society Organizations (市民社会組織) 誘致事業	R 5
9	SSPスポーツ科学大学連携設備整備費補助	R 5
10	施設園芸DX推進プロジェクト	R 5
11	SAGA2024競技会を楽しむ環境づくり事業	R 5
12	電子申請等推進事業	R 5
13	工業技術センターDX推進事業	R 4
14	窯業技術センターDX推進事業	R 4
15	県土整備DX推進事業	R 4
16	SSPアスリート育成設備整備事業	R 4
17	デジタル活用ものづくり魅力発信事業	R 4
18	県産品の情報発信拠点におけるテストマーケティング機能強化事業	R 4
19	行政デジタル化推進事業	R 4
20	認知機能検査デジタル推進化事業	R 4

効果検証シート【I 文化芸術に新たな息吹を吹き込む佐賀さいこうプロジェクト (R6~R8年度)】

事業目的	少子高齢化が進む中、地域に活力をもたらすためには、交流人口を増やしていくことが重要。佐賀の豊かな歴史的、文化的な魅力は、移住者や観光客を引き付ける大きなポイントであることから、これらを磨き上げることとて、その素晴らしさを県民のみならず広く全国に発信し、まちづくりの根本となる故郷への誇りや愛着、郷土愛を育み、交流人口の拡大を図り、地域経済の振興・発展につなげる。						
事業概要	○佐賀伝承芸能保存活用事業 県内各地で行われている伝承芸能を“カッコいい映像コンテンツ”として広く情報発信するとともに、新たに取材・撮影して映像コンテンツを制作することで、地域の誇るべき宝として次世代に継承していく気運を醸成する。 ○アーツコミッション推進事業 県内で開催する文化芸術事業を公募し、アドバイザーボードによるアドバイスやネットワーク支援等の磨き上げを行う。 ○島義勇顕彰事業 「北海道開拓の父」と北海道で慕われる佐賀県の偉人・島義勇の没後150年の節目に、北海道と連携し、島義勇の熱い「志」を伝えるため、島の功績を佐賀県・北海道の相互メディアを活用し情報発信する。 ○OMIGAKIプロジェクト事業 公の施設（キャンプ場、海水浴場、少年自然の家等）の一体的なブランディングや磨き上げを行うための戦略やコンテンツを制作する。						
交付対象事業費	R6:73,564千円、R7:71,288千円、R8:72,239千円						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	①観光消費額総額(億円)	目標	420.00	428.40 (+8.40)	436.85 (+8.45)	445.30 (+8.45)	(+25.30)
		実績	461.00	542.00 (+81.00)	— (—)	— (—)	(+81.00)

KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	②宿泊数(千人)	目標	1,995.00	2,014.00 (+19.00)	2,033.50 (+19.50)	2,053.0 (+19.50)	(+58.00)
		実績	2,429.40	2,344.95 (▲84.45)	— (—)	— (—)	(▲84.45)
	③博物館施設等の来館者数(千人)	目標	650.00	656.50 (+6.50)	663.50 (+7.00)	670.50 (+7.00)	(+20.50)
		実績	717.00	844.86 (+127.86)	— (—)	— (—)	(+127.86)
	④公の施設の来館者(利用者)数(千人)	目標	388.00	398.00 (+10.00)	413.00 (+15.00)	428.00 (+15.00)	(+40.00)
		実績	424.85	490.25 (+65.40)	— (—)	— (—)	(+65.40)
現状や課題 今後の方向性 (阻害要因の把握・ 分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・KPI①、②、③、④は、集客コンテンツ制作や情報発信強化等を行ったことなどにより目標値を達成したものの、KPI②については外国人宿泊者数の増加の一方で、日本人宿泊者数の減少により前年比マイナスになった。						
	【現状・課題・今後の方向性】 ・伝承芸能を“カッコいい映像コンテンツ”として情報発信(テレビ放映等)するとともに、新たに2つの伝承芸能を取材・撮影して映像制作を実施し、広く県民に伝承芸能の素晴らしさを伝えることができた。引き続き、担い手となる若い世代の興味・関心を惹きつける工夫を凝らした情報発信、映像制作に取り組む。						
	・様々なリソース(場所、人、モノ)を繋ぎ、LiveS Beyond II(16回)と文化講演会(2回)を実施することで、県内各地域で新たな文化シーンを創出した。これらをきっかけとして、まさしくBeyond(=「超えていく」)の事業趣旨のとおり、これまでできなかったことにチャレンジしたり、地域の文化資源としての定着の可能性が見えてくるなど、民間や市町の自発の取組が生まれており、更なる活性化に繋がっている。県内のアーティストやクリエイター等の活動をさらに発展させ、佐賀の集客や地域づくりに活かしていくため、効果的なアプローチを検証しながら、引き続き新たな価値の創出にチャレンジしていく。						
	・北海道及び本県において実施したパネル展示やラジオドラマ制作を通じて、より広く島義勇を知ってもらう取組を行った。島義勇の生涯が分かりやすくまとまっており勉強になったという声をいただくなど、北海道・本県の双方はもとより、web配信を行ったことで関東や関西の方にも島義勇を知ってもらう貴重な機会となった。なお、同ドラマでは、そのクオリティの高さが評価され、全国FM放送協議会(JFN)の「地域賞」を受賞した。引き続き様々な媒体を用いて島義勇を含む佐賀の偉人の顕彰に取り組む。						
	・令和6年度はフォトスポット新設や来場者キャンペーン実施等、集客コンテンツ制作や情報発信強化を行ったことにより、事業開始前に比べ公の施設の利用者数(KPI③)が約6万人増となった。ブランディング戦略を策定する中で、県内の施設間の回遊性不足や閑散期の利活用不足等の課題も見えてきたことから、今後は集客コンテンツ制作や情報発信強化に加え、施設間回遊促進のためのモビリティ導入実験やトライアルイベント実施等、ブランディング戦略に基づく磨き上げを推進していく。						

効果検証シート

【2 社会増加県へ 子育てし大県“さが”×DI人材育成・地元循環モデル構築プロジェクト (R6～R8年度)】

事業目的	デジタル技術を活用した社会の進化において半導体回路設計やその他の先端技術を活用してイノベーションを促進するための若手人材育成が重要。本県独自の教育プログラムを開発、新たな価値を創造する学びを提供することで、佐賀から産業を変革するデジタルイノベーション人材（以下「DI人材」という）の育成を図る。将来、佐賀で活躍するDI人材の地元循環モデルを構築し、社会増加県を目指す。																																						
事業概要	○佐賀県DI人材育成事業 地元企業・大学・高等専門学校連携によるDI人材育成プログラムの開発を行い、高校生が「SAGA DI（デジタルイノベーション）Lab」において伴走コーチとともに、DIカリキュラムを学ぶことで、県内のDI人材循環モデルを構築する ○佐賀県高校生DI選手権大会開催 高校生がLabで学んだデジタル技術をもとに成果発表や知識・技能を競う「佐賀県DI選手権大会」を開催する			＜DI人材の育成＞ ＜高校生DI選手権大会＞ 																																			
交付対象事業費	R6:50,000千円、R7:59,142千円、R8:64,852千円																																						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①地域のUIJターン数(人)</td><td>目標</td><td>129.00</td><td>319.00 (+190.00)</td><td>514.00 (+195.00)</td><td>714.00 (+200.00)</td><td>(+585.00)</td></tr><tr><td>実績</td><td>440.00</td><td>896.00 (+456.00)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+456.00)</td></tr><tr><td rowspan="2">②SAGA DI Lab参加者数(人)</td><td>目標</td><td>0.00</td><td>50.00 (+50.00)</td><td>100.00 (+50.00)</td><td>150.00 (+50.00)</td><td>(+150.00)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0.00</td><td>100.00 (+100.00)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+100.00)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	①地域のUIJターン数(人)	目標	129.00	319.00 (+190.00)	514.00 (+195.00)	714.00 (+200.00)	(+585.00)	実績	440.00	896.00 (+456.00)	— (—)	— (—)	(+456.00)	②SAGA DI Lab参加者数(人)	目標	0.00	50.00 (+50.00)	100.00 (+50.00)	150.00 (+50.00)	(+150.00)	実績	0.00	100.00 (+100.00)	— (—)	— (—)	(+100.00)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																																	
①地域のUIJターン数(人)	目標	129.00	319.00 (+190.00)	514.00 (+195.00)	714.00 (+200.00)	(+585.00)																																	
	実績	440.00	896.00 (+456.00)	— (—)	— (—)	(+456.00)																																	
②SAGA DI Lab参加者数(人)	目標	0.00	50.00 (+50.00)	100.00 (+50.00)	150.00 (+50.00)	(+150.00)																																	
	実績	0.00	100.00 (+100.00)	— (—)	— (—)	(+100.00)																																	

KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	③初年度に受講する「ベーシックコース」の修了者数(人)	目標	0.00	45.00 (+45.00)	90.00 (+45.00)	135.00 (+45.00)	(+135.00)
		実績	0.00	74.00 (+74.00)	— (—)	— (—)	(+74.00)
	④当該事業修了者の情報系の高等教育機関への進学者数・情報系職種への就職者数(人)	目標	0.00	0.00 (+0.00)	0.00 (+0.00)	40.00 (+40.00)	(+40.00)
		実績	0.00	0.00 (+0.00)	— (—)	— (—)	(+0.00)
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・KPI①②③④について、すべての項目において目標値を達成できた。						
	【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度の「SAGAハイスクールDI人材育成事業」では、育成プログラムの参加者募集に対し、23校139名の応募があり、想定を大きく上回る反響があった。関係企業等からも、今後のさらなる成長に対する期待の声が多く寄せられている。受講者アンケートにおいても、満足度は非常に高い結果となっている。現在は、新たに受け入れた受講生とともに活動が活発に展開されており、それに伴い運営体制の強化を進めている。今後は、大会等を通じて積極的にPRを行い、企業や高等教育機関との連携構築を目指していく。						

効果検証シート【3 SAGAの未来を支える担い手確保プロジェクト(R5～R7年度)】

事業目的	・都市圏から、人の呼び込みを図る　・佐賀の産業を支える担い手の確保を図る　・地域づくり、地域活性化への支援を図る																																						
事業概要	○佐賀県における暮らしや仕事の情報に一元的に触れられる移住フェアの開催 ○佐賀県から若者の人材流出が多い都市圏において、佐賀の仕事、暮らしの素晴らしさを伝える相談会を開催 ○地域における新規就農者の支援体制の構築を図りつつ、幅広い就農ルートから数多くの新規就農者の確保、定着を支援（補助金（協議会等組織）） ○農業への企業・法人等参入への理解醸成、参入候補となる農地情報の整理、企業・法人への情報発信 ○労働力確保支援のための体制整備、農福連携の定着・推進や外国人材活用の推進など多様な人材の活用促進 ○県内工業系高校生などを対象に、建設業の出前講座や体験会、魅力発信の実施 ○経営の高齢化などの課題がある県内中小企業等の円滑な事業承継を実現するためのシンポジウムや情報発信の実施 ○中山間地域の集落や産地等が主体的に行う「農業・農地を守る取組」、「農業所得を向上させる取組」「地域の活性化に向けた取組」に対して支援（補助金（市町）） ○精力的に地域づくり活動を実践している人材（ローカリスト）や地域づくりに興味のある人材（ネクストローカリスト）との交流会の開催等により地域づくり活動のきっかけを創出																																						
交付対象 事業費	R5:68,465千円、R6:86,135千円、R7:120,308千円																																						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①他都道府県からの移住者数(人)</td><td>目標</td><td>114</td><td>185 (+71)</td><td>191 (+6)</td><td>198 (+7)</td><td>(+84)</td></tr><tr><td>実績</td><td>129</td><td>440 (+311)</td><td>456 (+16)</td><td>— (—)</td><td>(+327)</td></tr><tr><td rowspan="2">②しごと相談室を通じたUJIターン就職者数(人)</td><td>目標</td><td>60</td><td>62 (+2)</td><td>64 (+2)</td><td>68 (+4)</td><td>(+8)</td></tr><tr><td>実績</td><td>48</td><td>52 (+4)</td><td>42 (▲10)</td><td>— (—)</td><td>(▲6)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①他都道府県からの移住者数(人)	目標	114	185 (+71)	191 (+6)	198 (+7)	(+84)	実績	129	440 (+311)	456 (+16)	— (—)	(+327)	②しごと相談室を通じたUJIターン就職者数(人)	目標	60	62 (+2)	64 (+2)	68 (+4)	(+8)	実績	48	52 (+4)	42 (▲10)	— (—)	(▲6)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																																	
①他都道府県からの移住者数(人)	目標	114	185 (+71)	191 (+6)	198 (+7)	(+84)																																	
	実績	129	440 (+311)	456 (+16)	— (—)	(+327)																																	
②しごと相談室を通じたUJIターン就職者数(人)	目標	60	62 (+2)	64 (+2)	68 (+4)	(+8)																																	
	実績	48	52 (+4)	42 (▲10)	— (—)	(▲6)																																	

現状や課題 (阻害要因の把握・分析・今後の方向性)	【KPIの達成状況】 KPI①については、移住フェアや相談会の実施や相談者に寄り添う支援を実施したことで、前年度と同水準を維持し目標値を達成したが、KPI②は直近ではなく長期的にUJIターン就職を考えている方が多く、目標未達成となった。 【現状・課題・今後の方向性】 令和6年度は、佐賀県への移住や就職に関するイベント等を、関東や関西、福岡を中心に実施し、多くの参加者があった。一方で、イベント等をきっかけにしたしごと相談室におけるUJIターン就職相談数は、前年度と同水準を維持したが、就職時期について長期的に計画している方が多かったことから、しごと相談室を通じたUJIターン就職者数が伸びなかった。 現在、多くの自治体が移住支援や促進に取り組んでおり、移住者の地域間競争は一層激化している。このような状況の中で、佐賀県を移住の候補地として認識してもらうためには、引き続き、移住や就職に関するイベントの実施が必要である。間口を広げるため、移住検討者だけでなく、今はまだ移住を考えていないようなライトな層にも佐賀県への移住及び転職に関する情報が届くよう、イベント等を通じた情報発信を強化していく。 その他も、建設業や農業などの分野に対する担い手確保の取組を実施した。 建設業では、建設業界の仕事について知っていただくため、小学生には建設現場体験会、高校生には、建設業界で働く先輩との意見交換会、ICT施工体験などを実施し、建設業界の魅力発信を行った。 農業分野では、福祉事業所とのマッチングを図る農福連携の取組の推進（マッチング件数86件）、モデル地区2区を選定し、外国人材受け入れに係る環境整備への支援を行った（特定技能外国人を延べ37名受け入れ） ただ、農業や建設業の有効求人倍率は依然として高く、引き続き、若者・女性・外国人を含む多様な人材に働いていただけるような取組を進めていく。
------------------------------	--

効果検証シート【4 未来創造型のチャレンジ研究を主軸とした大学連携推進事業(R5～R7年度)】

事業目的	大学との連携を強化することにより、佐賀県の施策を効率的に進める上で県が抱える課題やニーズに合った技術研究として、県民の安全・安心な地域づくりや産業の振興などにつながるだけでなく、そこで培われた新たなシーズが民間企業との共同研究や事業の実装に発展して新たな産業を生み出す。 また、これらの地域貢献や地域課題の解決に資する取組を県内外へ幅広く発信していくことで、進学希望の高校生などにとっての高等教育機関の魅力度向上、県内高等教育機関をハブとした若年層の活躍の場の拡大、キャリア向上を志す若者の佐賀への定住促進などに繋がり、県内高等学校から自県大学への進学率の向上にも寄与していくことを目指す。																																																			
事業概要	1 佐賀大学等との連携事業 2 コンベンションの開催																																																			
交付対象事業費	R5:50,125千円、R6:69,488千円、R7:104,918千円																																																			
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①県内高等教育機関との連携事業数 (延べ新規取組)(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>12 (+12)</td><td>24 (+12)</td><td>39 (+15)</td><td>(+39)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>13 (+13)</td><td>21 (+8)</td><td>－ (－)</td><td>(+21)</td></tr><tr><td rowspan="2">②申請事業を通じた研究テーマの本格的な社会実装や事業化、若しくは産学官連携等に着手した件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>0 (0)</td><td>0 (0)</td><td>2 (+2)</td><td>(+2)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>0 (0)</td><td>0 (0)</td><td>－ (－)</td><td>(0)</td></tr><tr><td rowspan="2">③県内高等学校から自県大学への進学率の向上(%)</td><td>目標</td><td>16.70</td><td>17.00 (+0.30)</td><td>18.00 (+1.00)</td><td>19.00 (+1.00)</td><td>(+2.30)</td></tr><tr><td>実績</td><td>16.70</td><td>15.40 (▲1.30)</td><td>17.50 (+0.80)</td><td>－ (－)</td><td>(▲0.50)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①県内高等教育機関との連携事業数 (延べ新規取組)(件)	目標	0	12 (+12)	24 (+12)	39 (+15)	(+39)	実績	0	13 (+13)	21 (+8)	－ (－)	(+21)	②申請事業を通じた研究テーマの本格的な社会実装や事業化、若しくは産学官連携等に着手した件数(件)	目標	0	0 (0)	0 (0)	2 (+2)	(+2)	実績	0	0 (0)	0 (0)	－ (－)	(0)	③県内高等学校から自県大学への進学率の向上(%)	目標	16.70	17.00 (+0.30)	18.00 (+1.00)	19.00 (+1.00)	(+2.30)	実績	16.70	15.40 (▲1.30)	17.50 (+0.80)	－ (－)	(▲0.50)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																																														
①県内高等教育機関との連携事業数 (延べ新規取組)(件)	目標	0	12 (+12)	24 (+12)	39 (+15)	(+39)																																														
	実績	0	13 (+13)	21 (+8)	－ (－)	(+21)																																														
②申請事業を通じた研究テーマの本格的な社会実装や事業化、若しくは産学官連携等に着手した件数(件)	目標	0	0 (0)	0 (0)	2 (+2)	(+2)																																														
	実績	0	0 (0)	0 (0)	－ (－)	(0)																																														
③県内高等学校から自県大学への進学率の向上(%)	目標	16.70	17.00 (+0.30)	18.00 (+1.00)	19.00 (+1.00)	(+2.30)																																														
	実績	16.70	15.40 (▲1.30)	17.50 (+0.80)	－ (－)	(▲0.50)																																														

現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 KPI②については、目標値を達成したが、KPI①はマッチングに至る件数が想定を下回ったことから目標未達成となった。KPI③については県内高校生に対して県内大学の魅力度をまだ十分に伝えきれていない面があることから目標値を下回ったものの、前年度から大きく数値は向上した。 【現状・課題・今後の方向性】 令和6年度は、県内大学の研究・取組を産業界に知っていただくための産学連携イベントを実施したところ、多数の県内企業関係者らの参加があり、想定を上回る反響があった。また、当該イベントがきっかけとなって企業とのつながりが生まれ、共同研究に至った事例もあったことから、今後は集客をさらに強化し、より多くの企業関係者らにイベント情報が届くよう、広報活動や情報発信を強化していく。それと同時に、企業と連携が可能になるような研究シーズの掘り起こしに努め、県内大学との連携事業数の確保につなげていく。 そして、これらの取組を着実かつ継続的に実行することで、県内大学の魅力を県内高校生に徐々に浸透させ、自県進学率の向上を目指していく。
--------------------------	---

効果検証シート【5 長崎県連携事業:まちの変化を力にした地域内外の交流拡大・地域の賑わい創出プロジェクト(R3~R7年度)】

事業目的	・新幹線開業に伴う誘客の効果を広域的に波及させるため、新たなコト・コンテンツの造成や情報発信、受入体制の強化により、リピーター確保や宿泊者数の増加を図り、観光消費額の拡大につなげる。 ・特長ある自然資源を活かし、自然を体験するアウトドアツーリズムによる周遊観光を促進し、宿泊客数の増加を図り、観光消費額拡大につながる取組を行う。								
事業概要	(1) 地域の観光資源の高付加価値化や新たなコンテンツの発掘、磨き上げ等にチャレンジする事業者への支援を実施。 (2) 日本遺産に認定されている佐賀県・長崎県にまたがるやきものづくりが盛んなエリア「肥前窯業圏」の魅力を発信するため、圏域内の周遊を促進する事業や広報、商品開発などを実施。 (3) 佐賀県と長崎県が共同で制作する観光情報誌の発行や、2022年の佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン事業で磨き上げた観光素材の流通促進・販売支援を実施。 (4) 佐賀県の持つ自然、文化、食といった観光資源を活かしたサイクルツーリズムの情報発信や、サイクリストの受入環境整備を実施。 (5) 自然公園等の魅力向上や利用促進につなげるため、九州自然歩道のホームページを管理・運営し、魅力的な情報発信を実施。						 		
交付対象事業費	R3:116,807千円、R4:85,459千円、R5:91,693千円、R6:54,506千円、R7:57,670千円								
KPI	KPI		事業開始前	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	累計
	①観光消費額(億円)	目標	3,778	3,944.04 (+166.04)	3,992.12 (+48.08)	4,040.24 (+48.12)	4,088.40 (+48.16)	4,136.64 (+48.24)	(+358.64)
		実績	3,778	1,859.41 (▲1918.59)	2,690.94 (+831.53)	3,534.80 (+843.86)	— (—)	— (—)	(▲243.20)
	②観光客(宿泊)のリピーター率(%)	目標	58.60	61.90 (+3.30)	63 (+1.10)	64 (+1.00)	65 (+1.00)	66 (+1.00)	(+7.4)
		実績	58.60	65 (+6.40)	58.40 (▲6.60)	62.80 (+4.40)	— (—)	— (—)	(+4.2)
	③観光消費単価(宿泊客)(円)	目標	31,921	32,600 (+679)	32,800 (+200)	33,000 (+200)	33,200 (+200)	33,400 (+200)	(+1,479)
		実績	31,921	32,477 (+556)	33,910 (+1,433)	36,031 (+2,121)	— (—)	— (—)	(+4,110)



現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 現在、算定中となり、達成状況は不明。(9月頃に数値判明予定)							
	【現状・課題・今後の方向性】 (1) 新たな観光コンテンツの造成や磨き上げ等を行う事業者への支援(補助金)を行い、現時点で14件の観光コンテンツの造成に繋がった。造成・磨き上げの支援を行った観光コンテンツは、まちあるきコンテンツや地域の素材を活かした観光客向けのスイーツ開発、滞在時間を延ばすナイトコンテンツ等、多岐にわたり、県外観光客へ佐賀の魅力幅広く伝える環境を整えることができた。さらなる誘客のためには、魅力的な観光コンテンツの継続的な創出と既存の観光コンテンツの定着化が必要である。今後は継続性に重点を置き、コンテンツ造成に専門的な知見を有するアドバイザーによる伴走支援を取り入れる等、事業者が造成・磨き上げを行った観光コンテンツの自走化に向けたフォローアップを集中的に行っていく。							
	(2) 日本遺産に認定された肥前窯業圏において、圏域内のやきもの関連施設などを巡る周遊促進や情報発信を行うとともに、圏域の案内や魅力を伝えられる人材の育成などを実施した。結果、各産地への誘客や、日本遺産や肥前やきもの圏の認知向上につなげることができた。 このほか、圏域内に在住する地域プロデューサーや商社、窯元とともに、やきものカジュアルブランド「HIZEN5」の商品開発ならびに販路開拓に取り組んだ。結果、佐賀県内の各産地一体となって共通のアイテムを作り出すことができ、また、これまでやきものに関心のなかった層に対しても、新たなアイテムを通じてやきもの文化の魅力に触れる機会を拡大することができた。 引き続き、事業の自走化も視野に入れながら、若年層を中心に新たなやきものファンを増やし、佐賀県が誇るやきもの文化の底上げや、幅広い層への浸透を継続的に図っていく。							
	(3) 佐賀県と長崎県で連携して観光情報誌「S&N」を作成し、関西圏・首都圏・九州北部エリアを中心とした書店、雑貨店等に配布した。両県のファンが増加しており、2県で取り組むことにより、旅の目的地として捉えられやすくなっている。これまでの取組をより効果的なものとするために、今後は、誘客につながるイベント等の開催や訴求ターゲットの拡大を行い、「S&N」を活用した観光素材の流通促進・販路拡大に取り組むとともに、佐賀県及び長崎県来訪のきっかけとなるよう継続的な情報発信を行い、旅行者や消費額の増加につなげる。							
	(4) 国内及び海外向けのSCC(佐賀サイクリングクラブ) 情報発信事業としてInstagramの投稿や運用、サイクリストの認知度が高いインフルエンサーによる動画制作・配信等を行った。その結果、SCC公式Instagramはフォロワー数が約30%増加、動画(YouTube)の再生数は2.5万回と認知度が上がってきている。サイクルツーリズムの拡大のためには、上記のような広域的な情報発信や県内事業者への支援等、継続した取り組みが必要であるため、引き続き国内外での広報活動を強化するとともに、市町や事業者との新たな連携事業を創出しながら、佐賀県におけるサイクルツーリズムの充実を図る。							

効果検証シート【6 唐津エリアの未来を紡ぐ唐津プロジェクト推進事業(R4～R6年度)】

事業目的	唐津エリアの真の豊かさ、素晴らしさを磨きあげるとともに、地域の自発的・主体的な取組をサポートする「唐津プロジェクト」を推進することにより、様々な地域で様々な光が輝き、多くの人々が唐津エリアを訪れ、人と人との出会う交流を生み出す好循環を創出する。						
事業概要	1 文化観光の推進 全国の武将が集った名護屋城跡・陣跡の磨き上げ ・大茶会イベントの開催、「黄金の茶室」・「草庵茶室」展示運営等 名護屋城博物館常設展示リニューアル ・常設展示の一部リニューアル設計・工事等 2 水産物の安定供給 漁業のスマート化推進にむけた漁船による実証試験 唐津産水産物PRキャンペーン等						
交付対象事業費	R4:188,397千円、R5:114,865千円、R6:146,064千円						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①名護屋城博物館の入館者数(人)	目標	47,710	57,710 (+10,000)	67,710 (+10,000)	82,710 (+15,000)	(+35,000)
		実績	50,670	94,499 (+43,829)	97,498 (+2,999)	86,022 (-11,476)	(+35,352)
	②唐津エリアの新規漁業就業者数(人)	目標	4	14 (+10)	24 (+10)	34 (+10)	(+30)
		実績	9	11 (+2)	20 (+9)	23 (+3)	(+14)
	③唐津エリアにおける観光客数(千人)	目標	4,212	4,633 (+421)	5,054 (+421)	5,896 (+842)	(+1,684)
		実績	4212	2,186 (▲2,026)	3,165 (+979)	4,264 (+1,099)	(+52)

現状や課題 (阻害要因の把握・分析)	KPI①名護屋城博物館の入館者数(人) 【KPIの達成状況】 令和6年度は86,022人で、令和4年度から令和6年度の3年間の増加が35,352人となり目標を達成できた。 (達成率101%) 【現状・課題・今後の方向性】 今年度は、第4回名護屋城大茶会(令和7年3月22日)の開催をはじめ、「黄金の茶室」や令和6年度に復元した「草庵茶室」を活用した体験プログラムの実施、県内外からの誘客に繋がるよう大阪お城フェス2024でのPRブース出展などによる情報発信などを行った。特に名護屋城大茶会では過去最高となる15,000人が来場し、うち約6割となる県外からの来場者の約半数が県内宿泊するなど大きな経済波及効果があった。令和7年3月に行った常設展示室の一部リニューアルでは、これまでの貴重な発掘調査や調査研究の成果を反映し、より城跡・陣跡への関心を引き、周遊を促進するような展示内容となっていることから、これからの多くの来館者を期待している。 今後は、名護屋城大茶会を継続して実施するとともに、体験プログラムの実施や博物館における情報発信を通じて名護屋城がもつ価値を広め、文化ツーリズムの創造を加速させていきたい。
	KPI②唐津エリアの新規漁業就業者数(人) 【KPIの達成状況】 令和6年度は目標10人に対し、3人という結果であり、令和4年度から令和6年度までの累計では、目標30人に対して14人という結果であった。(達成率46.6%) 【現状・課題・今後の方向性】 就業フェアへの参加者数や成約率が低く、競合等で就業前段階の研修実施者数が少なかったこと、研修実施後も収入面や生活環境への不安で、実際の就業に踏み切れないケースがあったことなどが阻害要因と考えている。 就業後の生活支援(住居、収入モデル提示など)の明確化、成功事例の発信による安心感の醸成等に努め、引き続き就業者数の増加に向けて取り組んでいきたい。
	KPI③唐津エリアにおける観光客数(人) 【KPIの達成状況】 名護屋城跡・陣跡の磨き上げや唐津産水産物PR等を含め本事業以外の多様な情報発信等により、令和6年度は前年度から1,099千人の増加となった。 【現状・課題・今後の方向性】 引き続き、唐津・玄海エリアの魅力溢れる地域資源を掘り起こし、本物の価値の磨き上げに取り組み県内外に情報発信していきたい。

効果検証シート【7 佐賀の本物の魅力醸成・発信プロジェクト(R4~R6年度)】

事業目的	数多くある佐賀の「本物」に磨きをかけ、それらを東京オリパラを契機として関係を深めた連携相手国とのネットワークを活用することにより、国内外へ効果的に発信する。コロナ禍を経て普及したオンラインやICT、SNS、WEBサイト等のデジタル技術を活用し、個々の県産品が持つ魅力をストーリー性のある内容でPRすることで佐賀の魅力を的確に発信する。国内外で佐賀ファンを創出し、その反響・反応が地元へ帰ることにより更に「本物」に磨きをかけ、機運を高める好循環を創出する。																																																			
事業概要	○重点連携国情報発信事業 ○佐賀牛によるEU市場参入プロジェクト ○佐賀ん酒体験空間「SAGA BAR」推進事業 SAGA BARの県内外でのプロモーション ○食材と器と料理人が織りなす食文化創造事業 ・産地ツアーやレストランイベント等の実施 ・レストラン経営等に関するノウハウ支援 ・料理人等が交流できるプラットフォームの形成 ○OEU・アジア食市場開拓ハンズオン支援事業																																																			
交付対象事業費	R4:125,362千円、R5:102,962千円、R6:125,082千円																																																			
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>KPI</th><th></th><th>事業 開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①県内酒蔵の清酒・焼酎・リキュールの輸出(キロリットル)</td><td>目標</td><td>192</td><td>198 (+6)</td><td>208 (+10)</td><td>218 (+10)</td><td>(+26)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>192</td><td>308 (+116)</td><td>247 (▲61)</td><td>261 (+14)</td><td>(+69)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">②県産食材及び器と国内外レストラン(シェフ)との新たな取引件数(新規顧客契約件数)(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>10 (+10)</td><td>20 (+10)</td><td>35 (+15)</td><td>(+35)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>37 (+37)</td><td>82 (+45)</td><td>121 (+39)</td><td>(+121)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">③「SAGA BAR」常設店舗及びイベントへの国内外からの来店者数(延べ人数)(人)</td><td>目標</td><td>0</td><td>2,000 (+2,000)</td><td>18,000 (+16,000)</td><td>34,000 (+16,000)</td><td>(+34,000)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>2,877 (+2,877)</td><td>39,587 (+36,710)</td><td>30,083 (▲9,504)</td><td>(+30,083)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業 開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①県内酒蔵の清酒・焼酎・リキュールの輸出(キロリットル)	目標	192	198 (+6)	208 (+10)	218 (+10)	(+26)	実績	192	308 (+116)	247 (▲61)	261 (+14)	(+69)	②県産食材及び器と国内外レストラン(シェフ)との新たな取引件数(新規顧客契約件数)(件)	目標	0	10 (+10)	20 (+10)	35 (+15)	(+35)	実績	0	37 (+37)	82 (+45)	121 (+39)	(+121)	③「SAGA BAR」常設店舗及びイベントへの国内外からの来店者数(延べ人数)(人)	目標	0	2,000 (+2,000)	18,000 (+16,000)	34,000 (+16,000)	(+34,000)	実績	0	2,877 (+2,877)	39,587 (+36,710)	30,083 (▲9,504)	(+30,083)
KPI		事業 開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																														
①県内酒蔵の清酒・焼酎・リキュールの輸出(キロリットル)	目標	192	198 (+6)	208 (+10)	218 (+10)	(+26)																																														
	実績	192	308 (+116)	247 (▲61)	261 (+14)	(+69)																																														
②県産食材及び器と国内外レストラン(シェフ)との新たな取引件数(新規顧客契約件数)(件)	目標	0	10 (+10)	20 (+10)	35 (+15)	(+35)																																														
	実績	0	37 (+37)	82 (+45)	121 (+39)	(+121)																																														
③「SAGA BAR」常設店舗及びイベントへの国内外からの来店者数(延べ人数)(人)	目標	0	2,000 (+2,000)	18,000 (+16,000)	34,000 (+16,000)	(+34,000)																																														
	実績	0	2,877 (+2,877)	39,587 (+36,710)	30,083 (▲9,504)	(+30,083)																																														

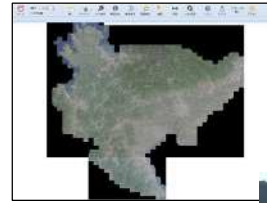


現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・KPI①(県内酒蔵の清酒・焼酎・リキュールの輸出)、KPI②(県産食材及び器と国内外レストラン(シェフ)との新たな取引件数)については、目標達成。KPI①は、輸出量の多い中国、香港の経済不況が続く影響で輸出量が昨年に引き続き減少した一方、米国等への輸出量は増加したことから、輸出数量全体としては目標を上回った。要因としては、米国内での昨年の消費マインドの減衰による消費量減がある程度回復し、レストランや現地小売店での取り扱いが増えたこと等が考えられる。 ・一方、KPI③は未達成となった。「SAGA BAR」常設店舗が令和5年4月にリニューアルオープンした直後は話題性から来店者が集中し、令和6年の来店者数が相対的に少なくなった。また、令和6年は飲食店との連携事業やセミナー等、佐賀酒の魅力を伝える拠点づくりに重点を置いたことで、大型イベントへの出展が減少したことなどから目標を下回った。しかしながら、令和4年度から令和6年度までの合計の来店者数は目標の来店者数を上回り、県内外の多くの方に佐賀酒を発信できた。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、レストランイベント、料理人向けの産地ツアー、プラットフォームの構築等を実施した。県内外の多くの料理人が産地ツアーに参加して下さったことから、目標を上回る新規取引に結び付けることができた。今後も県内外の料理人への働きかけやプロジェクトの情報発信を積極的に行い、県産食材等に興味を持ってもらうことで、産地ツアーやレストランイベント等を通じた新規取引の獲得に繋げていく。 ・また、「SAGA BAR」プロモーションに関しては、令和6年度は県外の飲食店とのコラボレーションイベントや、飲食店・酒販店等向けのセミナー等を実施した。県内外の飲食店が佐賀酒に対する理解を深め、佐賀酒の新規取引に結び付くなど、佐賀酒の認知拡大や消費喚起に繋がった。今後も、イベント出展に加え、飲食店等と連携した取組を実施することで、継続的な佐賀酒の魅力発信に繋げていく。
--------------------------	--

効果検証シート【8 JAXA連携を活かした宇宙関連産業創出、人材育成事業(R4~R6年度)】

事業目的	・佐賀県での宇宙関連産業の創出、佐賀県から宇宙(世界)で活躍する人材の育成を通じた地方創生を図る。 ・県内での宇宙関連産業に関する構造認識及び宇宙利用に関する認知度を向上させる。 ・佐賀県立宇宙科学館を拠点とした宇宙教育や佐賀県への誇りや愛着を醸成する取組みを通じて、次代を担う子どもたちの人材育成を図る。																																						
事業概要	○宇宙ビジネスを起点として、佐賀県の地域課題を解決するとともに、新たな市場として宇宙関連ビジネスを創出するために、多様なプレイヤーが共創し議論が生まれる場や社会実験の場を提供する。 ○宇宙を教材に佐賀や地球について関心を誘うカリキュラムを通じて、想像力、判断力、表現力を磨き、好奇心を掻き立て未来へチャレンジする心を育み、人材の育成につなげる。 ・JAXAGA SCHOOL小中学生の部 ○佐賀における宇宙活用や宇宙産業創出・育成を考え、高校生が、超小型人工衛星「キューブサット」の開発・打ち上げ・運用を目指す。 ・JAXAGA SCHOOL高校生の部																																						
交付対象事業費	R4:64,006千円、R5:116,825千円、R6:46,035千円																																						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)</td><td>目標</td><td>270,000</td><td>300,000 (+30,000)</td><td>330,000 (+30,000)</td><td>365,000 (+35,000)</td><td>(+95,000)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>119,409</td><td>166,138 (+46,729)</td><td>203,440 (+37,302)</td><td>267,594 (+64,154)</td><td>(+148,185)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">②宇宙技術を活用した地域課題解決のアイデア創出・可能性検証数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>6 (+3)</td><td>9 (+3)</td><td>(+9)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>8 (+5)</td><td>10 (+2)</td><td>(+10)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)	目標	270,000	300,000 (+30,000)	330,000 (+30,000)	365,000 (+35,000)	(+95,000)	実績	119,409	166,138 (+46,729)	203,440 (+37,302)	267,594 (+64,154)	(+148,185)	②宇宙技術を活用した地域課題解決のアイデア創出・可能性検証数(件)	目標	0	3 (+3)	6 (+3)	9 (+3)	(+9)	実績	0	3 (+3)	8 (+5)	10 (+2)	(+10)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																	
①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)	目標	270,000	300,000 (+30,000)	330,000 (+30,000)	365,000 (+35,000)	(+95,000)																																	
	実績	119,409	166,138 (+46,729)	203,440 (+37,302)	267,594 (+64,154)	(+148,185)																																	
②宇宙技術を活用した地域課題解決のアイデア創出・可能性検証数(件)	目標	0	3 (+3)	6 (+3)	9 (+3)	(+9)																																	
	実績	0	3 (+3)	8 (+5)	10 (+2)	(+10)																																	

人工衛星データ利活用



JAXAGA SCHOOL



【KPIの達成状況】

・KPI②(宇宙技術を活用した地域課題解決のアイデア創出・可能性検証数)は目標達成となった。KPI①(宇宙科学館の入館者数)については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたため、目標値の達成はしていないものの、入館者数は増加基調にあり、本事業の成果が出ていると判断できる。

【現状・課題・今後の方向性】

・衛星データを用いた地域課題の解決として、農業分野及び防災分野での実証事業に取り組んだ。活用できる見込みはあったものの、衛星データ分析の精度向上、分析結果の提供までに時間を要するなど、実際に活用するまでにはクリアしなければならない課題も見えてきた。今後も、衛星データの様々な分野での活用について検証を行い、衛星データの利活用モデルの確立、衛星データ利活用の普及を図る。

・JAXAGASCHOOL小中学生の部には、4年間で373人が入校し、宇宙や科学、そして佐賀について学んだ。毎年定員を大きく超える応募があり、アンケートによれば受講者・保護者満足度は90%を超えるなど高い評価を得ている。本事業が宇宙教育の普及と裾野の拡大に大きく繋がっていると判断する。令和7年度以降もプログラム内容のブラッシュアップを続け、将来宇宙や科学の分野で活躍する人材の育成を目指していく。

・JAXAGASCHOOL高校生の部では、4年間かけて超小型人工衛星「キューブサット」の開発にチャレンジ。開発したキューブサットは令和6年度に宇宙空間に放出された。本物の宇宙開発を模擬体験することができ、参加者からは、「将来も宇宙開発分野に携わりたい」という声があった。高校生の実際の進路選択の一つのきっかけになるような体験を提供することができた。令和7年度以降も高校生向けの宇宙教育プログラムの企画・検討をし、宇宙や科学分野の最先端で活躍できる人材の育成を目指す。

現状や課題
(阻害要因の把握・分析・対応)

効果検証シート【9 歩くライフスタイルの推進によるまちの賑わい創出・地域活性化プロジェクト(R4～R6年度)】

事業目的	佐賀県は、自家用車依存度が高く、多様な手段での移動が意識されていない状況にあることから、「歩きたくなる」施設・設備の整備、商店や商工団体・地域団体等と連携したまちなかを歩く動機づけとなる仕掛け及び佐賀が好きになる気持ち（観光、文化、歴史など）の向上につながる活動を通して、県民の歩くライフスタイルへの行動変容を促す。						
事業概要	SAGAサンライズパーク～佐賀駅～城内エリアを歩いて結ぶ仕掛けづくり 【「歩く」の情報発信を実施】 ◆ パーク～佐賀駅 間 プロスポーツチームと連携し歩きながら楽しめるイベント ◆ パーク～城内エリア 間 クイズラリーイベント 特に、SAGA2024閉会後もまちなかに足が向く仕掛けを展開。 ◆ 城内エリア サガ・ライトファンタジーと連携したイベント開催 ARKSを拠点として人の回遊を創出						
交付対象事業費	R4:14,057千円、R5:11,000千円、R6:20,000千円						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①公共交通機関を以前と比べて利用するようになった人の割合(%)	目標	6.00	7.00 (+1.00)	8.00 (+1.00)	9.00 (+1.00)	(+3.00)
		実績	6.00	3.80 (▲2.20)	8.20 (+4.40)	8.00 (▲0.20)	(+2.00)
	②県内主要6駅の乗車人員実質増加率(%)	目標	100.00	101.00 (+1.00)	103.00 (+2.00)	106.00 (+3.00)	(+6.00)
		実績	100.00	112.77 (+12.77)	122.65 (+9.88)	127.68 (+5.03)	(+27.68)
	③アプリ「SAGATOCO」登録者の1日あたりの平均歩数(歩)	目標	5,415.50	5,686.10 (+270.60)	5,956.70 (+270.60)	6,227.30 (+270.60)	(+811.80)
実績		5,597.72	5,677.01 (+79.29)	5,589.50 (▲87.51)	5,642.17 (+52.67)	(+44.45)	

・現状や課題 (阻害要因の把握・分析) ・今後の方向性	【KPIの達成状況】 KPI① 公共交通機関を以前と比べて利用するようになった人の割合(%) 令和5年度は県内で降車する際の運賃を無料にするバス利用促進の取組を実施したことで利用者が大きく増えた一方、6年度は同取組を実施しなかったことにより、目標に届かなかった。しかし、令和4年度と比較すると高い水準を維持している。 KPI② 県内主要6駅の乗車人員実質増加率(%) 各駅で乗車人員が増加したことにより、目標値を達成した。 KPI③ アプリ「SAGATOCO」登録者の1日あたりの平均歩数(歩) 主に夏季の歩数が伸び悩んだことにより、目標未達成となった。
	【今後の方向性】 令和6年度は、SAGA2024閉会後もまちなかへ歩いてもらえるよう、プロスポーツチームと連携したイベントを実施した。クイズラリーイベントでは、参加者の歩数が約1万歩となり目標を大きく達成したなど、同期間中に開催された他のイベントやプロスポーツチームの試合との相乗効果で、パーク～城内エリアを周遊した方が多く見られた。 今後は引き続き、観光やスポーツ、そこにしかない豊かな地域資源など移動の目的と一体となり「乗るきっかけ」を提供したり、子供がバスに親しむ機会を創出するなど、公共交通を「乗って支える」という意識の醸成と行動変容を促し、自家用車だけに頼るのではなく公共交通や徒歩、自転車も組み合わせる「歩くライフスタイル」への転換を推進する。

効果検証シート【IO SAGAアリーナを核とした交流人口の増加と地域活性化事業(R4～R6年度)】

事業目的	・SAGAアリーナのオープンをきっかけに、新たな交流人口の増加を図り、飲食、宿泊などの観光需要の増加を図る。 ・SAGAアリーナで、これまで佐賀県になかった新しいイベントや新たなビジネスの創出を図る。						
事業概要	OSAGAアリーナ利活用推進事業（県内事業者・県民参加型イベントの開催） ○「首都圏・海外営業及び招聘」及び「県内企業営業」 ○コンベンション等誘致PR費（コンベンション等開催支援補助、広報・主催者支援経費等） OSAGAサンライズパークアプリ開発費（機能追加の開発・実装）				 		
交付対象事業費	R4:110,073千円、R5:173,138千円、R6:53,680千円						
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①SAGAアリーナの観覧者数(人)	目標	0	0 (+0)	168,400 (+168,400)	453,400 (+285,000)	(+453,400)
		実績	0	0 (+0)	432,544 (+432,544)	871,456 (+438,912)	(+871,456)
	②アリーナの興行数(件)	目標	0	0 (+0)	29 (+29)	67 (+38)	(+67)
		実績	0	0 (+0)	60 (+60)	113 (+53)	(+113)
	③SAGAサンライズパークの利用者数(人)	目標	496,686	506,619 (+9,933)	528,186 (+21,567)	579,854 (+51,668)	(+83,168)
		実績	470,455	649,198 (+178,743)	1,046,966 (+397,768)	1,162,413 (+115,447)	(+691,958)

現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 KPI①～③いずれも、目標値を大きく上回る数値で達成することができた。
	【現状・課題・今後の方向性】 R6年度について、MICE9件、コンサート3件をはじめとする計53の多彩な興行を開催し、多目的アリーナであることを示すことができた。また、SAGAサンライズパークアプリではモバイルオーダー機能を改修し3階プレミアムフロアで活用することで、より質の高いホスピタリティを提供することができた。 全国的に多くのアリーナ建設が進む中で、引き続き、SAGAアリーナが選ばれるよう、イベントの主催者やプロモーターに対するPRに、指定管理者と連携しながら取り組む。MICEの受入体制整備やMICE誘致の強みとなるユニークベニューやエクスカッション等のコンテンツ作りを県内のホテル・宿泊、観光、交通、飲食等の民間事業者と連携して進め、SAGAアリーナで開催されるMICEの経済効果が県内全体に波及するよう取り組む。 また、今後は、イベント時期に限らず、日常的に賑わいが創出できるような取り組みも実施していきたい。

効果検証シート【Ⅰ 稼げる”さが”農業推進プロジェクト(R4～R6年度)】

事業目的	・収益性の高い園芸農業の振興を図る ・佐賀牛の生産基盤の強化を図る ・農村ビジネスの推進により農業者の経営力の強化を図る ・県産農産物のブランド力の向上と販路の拡大を図る																																																			
事業概要	○ 園芸の生産拡大 ・消費者に選ばれる高品質ブランドイチゴ「いちごさん」の生産・流通技術の確立 ・園芸団地の整備・運営の支援 ・新たな露地野菜の産地づくりに係る実証試験圃の設置 ○ 佐賀牛の生産基盤の強化 ・優秀な種雄牛作出のための交配や検定の実施 ・繁殖仕向け用雌子牛の遺伝子評価に対する支援 ○ 農村ビジネスによる経営の多角化 ・コーディネータ及びクリエイターによる農村ビジネスの成功事例の創出 ・農産加工品の開発や農産加工施設、農家レストラン、農家民宿等の施設整備に対する支援 ○ 県産農産物のブランディングと販路拡大 ・「いちごさん」「にじゅうまる」のブランド力向上に向けた情報発信やイベントの実施 ・生産者と実需者や消費者とのマッチング																																																			
交付対象事業費	R4:174,741千円、R5:176,715千円、R6:178,340千円																																																			
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①いちごの10a当たり収量(kg)</td><td>目標</td><td>4,594</td><td>4,654 (+60)</td><td>4,714 (+60)</td><td>4,850 (+136)</td><td>(+256)</td></tr><tr><td>実績</td><td>4,594</td><td>4,466 (▲128)</td><td>3,933 (▲533)</td><td>3,812 (▲121)</td><td>(▲782)</td></tr><tr><td rowspan="2">②農村ビジネスの新たな取組件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>25 (+25)</td><td>50 (+25)</td><td>75 (+25)</td><td>(+75)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>25 (+25)</td><td>50 (+25)</td><td>75 (+25)</td><td>(+75)</td></tr><tr><td rowspan="2">③肥育素牛の県内自給率(%)</td><td>目標</td><td>29.60</td><td>29.60 (+0.00)</td><td>30.06 (+0.46)</td><td>30.52 (+0.46)</td><td>(+0.92)</td></tr><tr><td>実績</td><td>29.60</td><td>29.33 (▲0.27)</td><td>28.51 (▲0.82)</td><td>27.06 (▲1.45)</td><td>(▲2.54)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①いちごの10a当たり収量(kg)	目標	4,594	4,654 (+60)	4,714 (+60)	4,850 (+136)	(+256)	実績	4,594	4,466 (▲128)	3,933 (▲533)	3,812 (▲121)	(▲782)	②農村ビジネスの新たな取組件数(件)	目標	0	25 (+25)	50 (+25)	75 (+25)	(+75)	実績	0	25 (+25)	50 (+25)	75 (+25)	(+75)	③肥育素牛の県内自給率(%)	目標	29.60	29.60 (+0.00)	30.06 (+0.46)	30.52 (+0.46)	(+0.92)	実績	29.60	29.33 (▲0.27)	28.51 (▲0.82)	27.06 (▲1.45)	(▲2.54)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																														
①いちごの10a当たり収量(kg)	目標	4,594	4,654 (+60)	4,714 (+60)	4,850 (+136)	(+256)																																														
	実績	4,594	4,466 (▲128)	3,933 (▲533)	3,812 (▲121)	(▲782)																																														
②農村ビジネスの新たな取組件数(件)	目標	0	25 (+25)	50 (+25)	75 (+25)	(+75)																																														
	実績	0	25 (+25)	50 (+25)	75 (+25)	(+75)																																														
③肥育素牛の県内自給率(%)	目標	29.60	29.60 (+0.00)	30.06 (+0.46)	30.52 (+0.46)	(+0.92)																																														
	実績	29.60	29.33 (▲0.27)	28.51 (▲0.82)	27.06 (▲1.45)	(▲2.54)																																														



現状や課題 (阻害要因の把握・分析)	KPI① いちごの10a当たり収量 【KPIの達成状況】 KPIを達成できなかったのは、気化熱により下温効果のある紙ポット育苗やハウス内の温度を下げるための遮光資材による被覆などの高温対策を実施していたが、R5年度を超える夏場の猛暑により苗の花芽形成が遅れ、定植後の生育及び出荷が全体的に遅れたこと、また、2月の低温の影響により生育が停滞したことが要因である。 【現状・課題・今後の方向性】 これらの対応として、紙ポット育苗の効果を更に高める技術の確立や冷蔵庫などで苗を強制的に冷却し、花芽形成を促進する株冷処理技術の推進等により、早期の花芽分化を誘導するとともに、引き続き、ハウス内環境の改善による生育促進や商品果率向上、データを活用した栽培技術の確立による収量向上を図る。 KPI② 農村ビジネスの新たな取組件数 【KPIの達成状況】 KPIを達成できたのは、総括クリエイターと専門クリエイターによる重点支援農家(5件)へのプランの実行支援(ブランディング・商品化・情報発信力の強化)、及びレストランや加工施設の整備や新商品化に向けた試作や販促に対する補助、並びにさが農村ビジネスサポートセンターによる伴走支援(延べ201件の相談対応・61件のプランナー派遣)やセミナー等で農村ビジネスに取り組むための経営・販売戦略、人材育成を図ったことなどが要因である。 【現状・課題・今後の方向性】 引き続き、農林漁家への継続的な人材育成や伴走支援・補助などの総合的な支援により、農村ビジネスの新たな取組の増加を図る。 KPI③ 肥育素牛の県内自給率 【KPIの達成状況】 KPIを達成できなかったのは、子牛価格の急激な下落や配合飼料価格の高止まりに伴う繁殖経営の悪化により、高齢牛を中心に繁殖母牛の淘汰が進み、肥育素牛の出荷頭数が減少したことが要因である。 【現状・課題・今後の方向性】 これらの対応として、こうした厳しい経営環境にあっても規模拡大に意欲的な経営体を中心に、優良雌牛の導入、繁殖牛舎整備の支援、繁殖肥育一貫経営の取組を推進するとともに、ブリーディングステーション「佐賀牛いろはファーム」の活用により、肥育素牛の生産拡大を図る。
-----------------------	---

効果検証シート【12 SAGAスポーツピラミッド推進プロジェクト(R2～R6年度)】

事業目的	①トップアスリートの育成により、多くの有望選手が佐賀で学びたいと思う ②仕事とスポーツを両立したライフスタイルが浸透し、スポーツ経験のある社会人が佐賀で暮らしてみたいと思う ③多くの企業がスポーツビジネスに参入し、新たなサービスや雇用の創出により、起業や投資意欲のある人が集まる地域になることで好循環を創り、佐賀にヒト、モノ、カネの流れがスポーツを切り口に生み出される姿を目指す。								
事業概要	(1) 人材育成事業 佐賀から世界に挑戦するトップアスリートの育成のため、一流指導者等から指導を受ける環境を整備する。 (2) 就職支援事業 アスリート・指導者が、県内企業に就職し、競技・指導を続けるため、企業とアスリート・指導者をマッチングする。 (3) 広報事業 SSP構想の県民・企業への周知を図る。								
交付対象事業費	R2:42,156千円、R3:59,831千円、R4:116,992千円、R5:139,741千円、R6:155,465千円								
KPI	KPI		事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①県外からの流入アスリート数(人)	目標	37	52 (+15)	92 (+40)	157 (+65)	192 (+35)	227 (+35)	(+190)
		実績	37	71 (+34)	149 (+78)	211 (+62)	261 (+50)	331 (+70)	(+294)
	②SSP事業提携企業数(社)	目標	40	60 (+20)	80 (+20)	105 (+25)	130 (+25)	155 (+25)	(+115)
		実績	40	68 (+28)	95 (+27)	107 (+12)	113 (+6)	135 (+22)	(+95)
	③アスリート雇用エントリー企業(社)	目標	20	25 (+5)	30 (+5)	45 (+15)	60 (+15)	77 (+17)	(+57)
		実績	20	47 (+27)	69 (+22)	81 (+12)	84 (+3)	107 (+23)	(+87)
	④SSPアスリート認定者数(人)	目標	90	95 (+5)	100 (+5)	120 (+20)	130 (+10)	145 (+15)	(+55)
		実績	90	123 (+33)	178 (+55)	274 (+96)	380 (+106)	442 (+62)	(+352)

現状や課題 (阻害要因の把握・分析)	【KPIの達成状況】 KPI②については、SSP構想に共感して一緒に取り組んでもらえる企業や団体は昨年度より増えたものの目標値には達していないが、県外からの流入アスリート数を含め、KPI①③④については目標値を達成しており、知スポーツを通じ、地方創生に寄与できている。	
	【現状・課題・今後の方向性】 令和6年度は、SSP構想のもと、引き続き、外部の一流指導者を招聘しての人材育成や練習環境の整備、アスリートのキャリア支援など幅広い分野でアスリート支援を実施してきた。 さらに、令和7年3月には、SSP構想の基本理念や基本的政策を定めた「SAGAスポーツピラミッド推進条例」が施行し、SSP構想を恒久的に推進していくこととし、「アスリートが食べていける社会」「スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会」を目指す。 アスリートの人生にコミットした人材育成、県内進学を希望する高校生のためのアスリート寮の整備・運営、練習環境の充実、デジタル技術を活かした育成、女性アスリート支援に加え、スポーツ医科学やスポーツビジネス、そして県独自でパラスポーツの全国大会を開催するなど新たな取組にも挑戦していく。 就職支援や引退後のアスリートのセカンドキャリア支援にも取り組み、アスリート一人一人の人生にコミットしていく。また、県内企業にスポーツビジネスがさらに広がるように新たにスポーツビジネススクールを開講予定など、スポーツビジネスの推進を図る。 SSP構想に賛同して、様々なかたちで一緒に取り組んでもらえるSSP構想を支える企業、団体が増えるよう努める。	
事業イメージ	  	

効果検証シート【13 島根県連携事業：高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト(R2～R6年度)】

事業目的	県立高校の魅力や強みを磨き上げ、学校の魅力を積極的に発信することにより、県内外からの志願者を増加させ、学校の活性化を図るとともに、社会に有為な人材の育成・輩出を目指す唯一無二の誇り高き学校づくりを推進する。
事業概要	唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト 令和5年度重点的取組 ～他には無いただ一つだけの魅力を持つ学校に～ 唯一無二の誇り高き学校 学校による地域の活性化 地域を担う人材育成 生徒の主体的な学び 生徒自らが学びたい行きたい学校 教職員の意欲向上 教職員の強みを活かした配置 組織的な取組 学校の魅力 カリキュラムマネジメント 体験的活動 地域協働活動 総合的な探究 キャリア教育 積極的な情報の発信 県内外からの志願者の増加 SAGAハイスクールプロモーション SAGA唯一無二の学校魅力化実践事業 ●「地域みらい留学」参画（有田工業高校、唐津青翔高校） ●高校進学相談会、説明会 ●学校魅力化アドバイザーによる学校魅力化伴走 ●学校魅力化コーディネーターの配置（5校） ●デザイン研修の実施、情報発信強化 OSAGAハイスクールプロモーション事業 特色ある高校における全国募集を行うネットワーク「地域みらい留学」を活用した生徒募集に県内高校2校が参画し、全国からの生徒募集を促進する。 OSAGA唯一無二の学校魅力化実践事業 地域、企業、大学等と協働した学校運営組織による学校の魅力に取り組む。アドバイザーによる高校の魅力化の伴走支援を行う。
交付対象事業費	R5:20,000千円、R6:23,866千円

KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①「高校を核とした関係人口」の数(=地域みらい留學生徒数+卒業後も地元に関わった大学生・社会人数+地域外からの高校への応援者数)(人)	目標	2,360	2,560 (+200)	3,176 (+616)	3,631 (+455)	4,266 (+635)	5,085 (+819)	(+2,725)
		実績	2,360	4,239 (+1,879)	3,948 (▲291)	5,194 (+1,246)	6,281 (+1,087)	— (—)	(+3,921)
	②「都市部での地方高校全国説明会」参加者数(人)	目標	2,093	2,293 (+200)	2,543 (+250)	2,898 (+355)	3,328 (+430)	3,895 (+567)	(+1,802)
		実績	2,093	3,456 (+1,363)	4,024 (+568)	4,368 (+344)	4,346 (▲22)	5,646 (+1,300)	(+3,553)
	③「地域課題解決学習全国大会」エントリープロジェクト件数(件)	目標	292	322 (+30)	476 (+154)	673 (+197)	793 (+120)	1,057 (+264)	(+765)
		実績	292	439 (+147)	773 (+334)	1,002 (+229)	1,741 (+739)	— (—)	(+1,449)
	④「共学共創ネットワーク」参加自治体・学校数(団体)	目標	55	60 (+5)	66 (+6)	74 (+8)	83 (+9)	93 (+10)	(+38)
		実績	55	68 (+13)	78 (+10)	100 (+22)	119 (+19)	145 (+26)	(+90)
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・KPIに関してはすべての項目で目標値を達成した。 (※KPI①③は、島根県で数値を算定しているが、事業終了を受け、今年度の数値の算定は行わないとのこと) 【現状・課題・今後の方向性】 ・地方の魅力ある教育環境や受け入れ体制について全国へプロモーションを展開しているが、募集定員には達していない。対面での説明会だけでなくオンラインやSNSなどを用いて戦略的な情報発信が必要である。 ・外部アドバイザーによる学校への伴走支援及び教職員向けの研修実施を通じて、魅力化に向けた学校の運営体制を確立した結果、地域と協働した学びが実現し、学校の魅力化を促進することができた。 ・「学校魅力化コーディネーター」を学校に配置し、探究活動において地域等と協働した活動が促進された。 ・「高校魅力化評価システム」を用いて、地域との取り組みを数値化することで、分析しPDCAサイクルの構築を図れた。 ・今後も引き続き県立高校の魅力の磨き上げに取り組み、県内外からの志願者増加を図っていく。								

効果検証シート【14 佐賀県地方創生移住・地域活性化等起業支援事業(R1～R7年度)】

事業目的	安定した雇用の創出や移住の促進等の取組により、人口移動による社会減を減らし、地域経済の縮小を抑え、地域に新しい活力を生み出すために、佐賀県への新しいひとの流れを創出する。また、求職者と企業等とのマッチング支援との相乗効果により、より多くの産業人材を確保するとともに、地域の社会的課題を解決する起業、事業承継又は第二創業を促進し、持続可能な活力ある地域を構築する。																																					
事業概要	1 佐賀県地方創生移住支援事業 ・東京23区内在住者又は通勤者（通学を含む）が、当県に移住し、所要の要件を満たす場合、移住に要する転居費用等の経済的負担を軽減するための移住支援金を支給することにより、移住を後押しする。 ・マッチングサイト「さがジョブナビ」の保守・運営を実施し、より多くの求職者に当県の企業情報・求人情報を認知してもらうサイト運営を行う。 2 佐賀県地域活性化等起業支援事業 高齢化の進行や人口減少に伴う地域の担い手不足や移動手段の確保等、県が抱える地域課題の解消を図るため、地域課題の解決を目的とした社会的事業について起業する者及びSociety5.0関連業種等の付加価値の高い産業分野での事業承継又は第二創業した者に対して起業支援金の給付や起業等に伴う伴走支援を行う。																																					
交付対象事業費	R1:17,453千円、R2:24,085千円、R3:48,554千円、R4:54,882千円、R5:80,054千円、R6:75,321千円、R7:100,592千円																																					
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R1年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①本移住支援事業に基づく移住就業者数(人)</td><td>目標</td><td>0</td><td>26 (+26)</td><td>83 (+57)</td><td>140 (+57)</td><td>197 (+57)</td><td>234 (+37)</td><td>284 (+50)</td><td>(+284)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>0 (+0)</td><td>2 (+2)</td><td>21 (+19)</td><td>50 (+29)</td><td>85 (+35)</td><td>117 (+32)</td><td>(+117)</td></tr></table>									KPI		事業開始前	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①本移住支援事業に基づく移住就業者数(人)	目標	0	26 (+26)	83 (+57)	140 (+57)	197 (+57)	234 (+37)	284 (+50)	(+284)	実績	0	0 (+0)	2 (+2)	21 (+19)	50 (+29)	85 (+35)	117 (+32)	(+117)
KPI		事業開始前	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計																													
①本移住支援事業に基づく移住就業者数(人)	目標	0	26 (+26)	83 (+57)	140 (+57)	197 (+57)	234 (+37)	284 (+50)	(+284)																													
	実績	0	0 (+0)	2 (+2)	21 (+19)	50 (+29)	85 (+35)	117 (+32)	(+117)																													

KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	②本移住支援事業に基づく移住起業家数(人)	目標	0	3 (+3)	6 (+3)	9 (+3)	12 (+3)	15 (+3)	18 (+3)	(+18)
		実績	0	0 (+0)	1 (+1)	3 (+2)	4 (+1)	6 (+2)	7 (+1)	(+7)
	③本起業支援事業に基づく起業家数(人)	目標	0	5 (+5)	15 (+10)	25 (+10)	35 (+10)	45 (+10)	55 (+10)	(+55)
		実績	0	3 (+3)	10 (+7)	19 (+9)	28 (+9)	38 (+10)	48 (+10)	(+48)
	④マッチングサイトに新たに掲載された求人数(件)	目標	0	160 (+160)	360 (+200)	560 (+200)	760 (+200)	960 (+200)	1,160 (+200)	(+1,160)
		実績	0	257 (+257)	680 (+423)	1,128 (+448)	1,602 (+474)	2,041 (+439)	2,398 (+357)	(+2,398)
	⑤本移住支援事業に基づく18歳未満の世帯員を帯同して移住した世帯数(世帯)	目標	—	— (—)	— (—)	— (—)	20 (+20)	40 (+20)	60 (+20)	(+60)
		実績	—	— (—)	— (—)	— (—)	11 (+11)	29 (+18)	43 (+14)	(+43)
	【KPIの達成状況】 KPI③④については、目標を達成した。KPI③(令和6年度の起業家数)は目標どおり増加しており、県内の地域課題の解決及び移住起業家数の増加に寄与している。また、KPI④(マッチングサイトに新たに掲載された求人数)も、令和2年度以降は目標の2倍以上を維持しており、移住希望者にとって就業の選択肢が広がることで、移住就業者数の増加に寄与しているものと思われる。 一方で、KPI①②⑤は、着実に増加しているものの、目標は未達成となった。本移住支援事業は、東京23区内在住者または通勤・通学者を対象とした支援である。令和6年度においては、佐賀県の支援を受けて移住した移住者の総数は増加したが、そのうち東京圏からの移住者数は前年度と比較して減少した。このことが、目標未達成の要因となったと考えられるため、引き続き東京圏へ向けた支援や広報を行うことで、東京圏からの移住者数の増加に努める。 【現状・課題・今後の方向性】 令和6年度も移住支援金の支給や移住イベントの開催、起業支援金等による起業支援を行った結果、458人の移住者の獲得、10件の起業事業の創出につながった。一方で、多くの自治体が移住支援や促進に取り組んでおり、地域間競争は一層激化している。このような状況の中で、佐賀県を移住・起業の候補地として認識してもらい、実際の移住に繋げるためには、引き続き当事業の実施が必要である。 庁内の関係部局や市町、既に移住された方々と連携し、ターゲットエリアや世代を意識しながら、本県の暮らしやすさなどの強みを丁寧に発信することも必要である。 さらに、相談会等を通じて移住希望者との接点をつくり、ニーズに応じたきめ細やかな対応を進めることで、佐賀県が移住先に選ばれるよう当事業の効果を最大化していく。									

効果検証シート【15 プロフェッショナル人材戦略拠点事業(R5～R9年度)】

事業目的	地域企業の経営者に対し、新事業や新販路の開拓など、積極的な「攻めの経営」への転換を促し、民間人材マーケットにおいて必要なプロ人材ニーズと求職者をマッチングすることにより、企業の成長戦略の実現を図る。
事業概要	佐賀県プロフェッショナル人材戦略拠点の企画・運営 ・プロフェッショナル人材戦略マネージャー等が、県内企業訪問やセミナー開催をすることで、経営改善の意欲を喚起し、成長戦略を実現するプロフェッショナル人材の活用を促す。 ・プロ人材の活用に消極的な企業に対する、経営相談等を通じてその潜在的なプロ人材ニーズの掘り起こし。 ・兼業・副業やOB人材の活用等様々な働き方や採用方法について県内企業のニーズを調査 ・金融機関や関係機関等と連携し、セミナーの共催や情報共有等により効果的に事業を推進する ・外部コンサルタントの人脈や専門性を活かし、訪問企業の開拓を行う。 ・外部コンサルタントによる経営改善支援により潜在的なプロ人材ニーズの掘り起こしを行う。 ・民間企業や関係機関等と連携し、県内企業のデジタル化の推進 等 資料No. 13-1
交付対象事業費	R5:34,895千円、R6:35,991千円、R7:38,694千円、R8:38,694千円、R9:38,694千円

KPI 上段：実績値 下段（）：増加分	KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計
	①プロフェッショナル人材のマッチング件数（副業・兼業含む）（件）	目標	20	40 (+20)	60 (+20)	80 (+20)	100 (+20)	120 (+20)	(+100)
		実績	58	111 (+53)	184 (+73)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	(+126)
	②プロフェッショナル人材拠点における相談件数（件）	目標	150	300 (+150)	450 (+150)	600 (+150)	750 (+150)	900 (+150)	(+750)
		実績	158	325 (+167)	489 (+164)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	(+331)
	③デジタル化推進にかかるプロフェッショナル人材のマッチング件数（件）	目標	0	3 (+3)	6 (+3)	10 (+4)	14 (+4)	19 (+5)	(+19)
		実績	0	9 (+9)	17 (+8)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	(+17)
	④副業・兼業人材の移動費補助金交付件数（件）	目標	1	6 (+5)	11 (+5)	16 (+5)	21 (+5)	26 (+5)	(+15)
		実績	0	0 (+0)	2 (+2)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	(+2)

現状や課題 （阻害要因の把握・分析・対応）	【KPIの達成状況】 KPI①②③ともに目標値を達成。一方で、KPI④について、補助制度の周知に努めたものの、移動費補助のニーズが少なかったため、目標未達成となった。
	【現状・課題・今後の方向性】 県内中小企業等への訪問による経営者等へのヒアリングやセミナー等を通し、企業が必要としているプロ人材を具体化、ニーズの掘り起こしを行い、プロ人材が登録されている民間人材ビジネス事業者やプロ人材が在籍している大企業人事部等と連携し、県内中小企業からの人材ニーズ情報を提供することで、都市部の求職者と県内中小企業等のマッチング支援件数の増加につなげた。（成約件数73件）
	現状、マッチング件数、相談件数等増加傾向にあることから、引き続き、県内中小企業の「攻めの経営」への意欲を喚起し、成長戦略実現のため、企業が必要としている人材ニーズの掘り起こしを行う。また、企業のニーズと求職者のマッチングのため、民間ビジネス事業者や金融機関等と連携し、プロフェッショナル人材の地方還流（UJIターン）を促進する。
	また、昨今、利用が増えている副業・兼業についても様々な働き方の有用性についての理解増進を行うなどして活用を促進し、県内企業の経営力強化につなげる。

効果検証シート【16 佐賀県女性就業支援事業(R3~R6年度)】

事業目的	佐賀県の産業を支える多様な人材を確保するため、現在労働に参加していない就業を希望する女性の労働参加を促すと同時に、就業者の健康維持や仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」が実現できる労働環境整備を進めることで女性の就業支援を行う。
事業概要	A. 支援対象者の掘り起こしに関する取組 【佐賀県就活サポート事業】 子育て世代の再就職促進のための情報発信、セミナーの開催 B. 職場環境改善支援に関する取組 【次世代働き方改革モデル実践事業】 様々な企業において女性が柔軟に働けるような職場環境とするため、専門家派遣による職場環境改善に向けての取組を実践 【女性の活躍推進佐賀県会議】 女性が働きやすい・働きたいと思えるような、ワーク・ライフ・バランスが確保された魅力ある企業を県内に増やすため、主に企業を対象とした意識啓発事業（セミナー等）を実施 C. マッチング支援に関する取組 【佐賀県就活サポート事業】 仕事と子育てが両立しやすい環境が整った企業や子育てを応援している企業を選定し、「子育て世代向け就活フェア」を開催  次世代働き方改革モデル実践事業における専門家企業コンサルタントの様子
交付対象事業費	R3:23,035千円、R4:25,144千円、R5:25,349千円、R6:26,347千円

KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業 開始前	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①本事業により新規就業が実現した者の数(新規就業者数)(人)	目標	0	130 (+130)	290 (+160)	450 (+160)	612 (+162)	(+612)
		実績	0	236 (+236)	525 (+289)	860 (+335)	1172 (+312)	(+1,172)
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	②女性の活躍推進佐賀県会議の新規会員企業登録数(社)	目標	0	10 (+10)	20 (+10)	30 (+10)	41 (+11)	(+41)
		実績	0	98 (+98)	165 (+67)	185 (+20)	222 (+37)	(+222)
【KPIの達成状況】 本事業におけるKPI①②ともに目標値を大きく上回っており、女性の就業支援に寄与している。 【現状・課題・今後の方向性】 令和6年度は、様々な手法で女性の就業支援に関する取組を実施し、KPIも目標値を達成している。実際に働き方改革に取組んだ企業の事例をもとにしたセミナーや専門家による個別コンサルティングを行ったところ、「会社の雰囲気がよくなった」との意見が多くあった。また、妊娠や出産などにより離職後、再就職を希望する子育て世代や、子供の成長等により新たな働き方を希望する方を対象に就活イベントや伴走支援を実施し、育児をしている女性の就業率上昇に寄与した。 このような取組を進めているが、本県の有効求人倍率は高倍率で推移しており、あらゆる業種で人材不足となっているのが現状であり、引き続き、女性の就業支援、多様な働き方ができる労働環境整備、女性活躍推進に取り組み、多様な人材の確保に努める。								

効果検証シート

【I 吉野ヶ里をアウトドアの聖地へ～官民連携による新たな自然体験、交流拠点施設整備【吉野ヶ里歴史公園】(R6年度)】

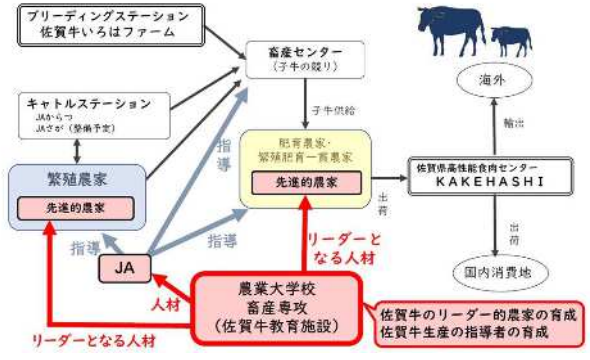
事業目的	日本最大級の弥生時代の集落遺跡を有する吉野ヶ里歴史公園において、日本を代表するアウトドアメーカーである株式会社スノーピークとの官民連携事業により、歴史と自然と人をつなぐ交流拠点施設や、民間投資による宿泊施設等を整備し、弥生時代の歴史を見るだけでなく実際に体感しキャンプができる唯一無二の公園として公園の価値を高め、人や物の交流を拡大させ、新しい人の流れをつくる。																																																			
事業概要	交流拠点施設を官民連携により整備し、公園内の周遊、地元と連携した農林水産物や製品の活用・販売、地元観光施設等への周遊の促進、さらには、デジタル技術を活用したリモートワーク環境やスマートチェックインゲートの整備により、公園の価値を向上させ、交流人口を増加させる。 ・交流拠点施設の整備等																																																			
交付対象事業費	964,700千円																																																			
KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>R9年度</th><th>R10年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①神埼・吉野ヶ里エリアの観光消費額(億円)</td><td>目標</td><td>17.90</td><td>17.90 (+0)</td><td>19.1 (+1.20)</td><td>19.69 (+0.59)</td><td>19.85 (+0.16)</td><td>20.00 (+0.15)</td><td>(+2.18)</td></tr><tr><td>実績</td><td>17.90</td><td>25.86 (+7.96)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+7.96)</td></tr><tr><td rowspan="2">②吉野ヶ里歴史公園の入場者数(万人)</td><td>目標</td><td>70.00</td><td>70.00 (+0)</td><td>85.10 (+15.10)</td><td>92.60 (+7.50)</td><td>94.60 (+2.00)</td><td>96.60 (+2.00)</td><td>(+27.70)</td></tr><tr><td>実績</td><td>70.00</td><td>68.61 (▲1.39)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(▲1.39)</td></tr></table>									KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	累計	①神埼・吉野ヶ里エリアの観光消費額(億円)	目標	17.90	17.90 (+0)	19.1 (+1.20)	19.69 (+0.59)	19.85 (+0.16)	20.00 (+0.15)	(+2.18)	実績	17.90	25.86 (+7.96)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+7.96)	②吉野ヶ里歴史公園の入場者数(万人)	目標	70.00	70.00 (+0)	85.10 (+15.10)	92.60 (+7.50)	94.60 (+2.00)	96.60 (+2.00)	(+27.70)	実績	70.00	68.61 (▲1.39)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(▲1.39)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	累計																																												
①神埼・吉野ヶ里エリアの観光消費額(億円)	目標	17.90	17.90 (+0)	19.1 (+1.20)	19.69 (+0.59)	19.85 (+0.16)	20.00 (+0.15)	(+2.18)																																												
	実績	17.90	25.86 (+7.96)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+7.96)																																												
②吉野ヶ里歴史公園の入場者数(万人)	目標	70.00	70.00 (+0)	85.10 (+15.10)	92.60 (+7.50)	94.60 (+2.00)	96.60 (+2.00)	(+27.70)																																												
	実績	70.00	68.61 (▲1.39)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(▲1.39)																																												

KPI 上段:実績値 下段():増加分	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>R9年度</th><th>R10年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">③宿泊施設やキャンプ場フィールドの宿泊者数(万人)</td><td>目標</td><td>0.00</td><td>0 (+0)</td><td>2.59 (+2.59)</td><td>3.88 (+1.29)</td><td>4.06 (+0.18)</td><td>4.25 (+0.19)</td><td>(+4.25)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0.00</td><td>0 (+0)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+0)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">④交流拠点施設におけるイベント開催回数(回)</td><td>目標</td><td>0.00</td><td>0 (+0)</td><td>4.00 (+4.00)</td><td>6.00 (+2.00)</td><td>8.00 (+2.00)</td><td>10.00 (+2.00)</td><td>(+10.00)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0.00</td><td>0 (+0)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+0)</td></tr> </tbody> </table>								KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	累計	③宿泊施設やキャンプ場フィールドの宿泊者数(万人)	目標	0.00	0 (+0)	2.59 (+2.59)	3.88 (+1.29)	4.06 (+0.18)	4.25 (+0.19)	(+4.25)	実績	0.00	0 (+0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+0)	④交流拠点施設におけるイベント開催回数(回)	目標	0.00	0 (+0)	4.00 (+4.00)	6.00 (+2.00)	8.00 (+2.00)	10.00 (+2.00)	(+10.00)	実績	0.00	0 (+0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+0)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	累計																																											
③宿泊施設やキャンプ場フィールドの宿泊者数(万人)	目標	0.00	0 (+0)	2.59 (+2.59)	3.88 (+1.29)	4.06 (+0.18)	4.25 (+0.19)	(+4.25)																																											
	実績	0.00	0 (+0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+0)																																											
④交流拠点施設におけるイベント開催回数(回)	目標	0.00	0 (+0)	4.00 (+4.00)	6.00 (+2.00)	8.00 (+2.00)	10.00 (+2.00)	(+10.00)																																											
	実績	0.00	0 (+0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	(+0)																																											
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 本事業の効果発現は令和8年春の供用後となる。 【現状・課題・今後の方向性】 R8年春の供用予定として現在整備を進めているところ。																																																		

効果検証シート【2 JAXA連携を活かした文化観光施設の磨き上げに伴う地域活性化・人材育成事業(R5年度)】

事業目的	宇宙科学館を地域の核となる文化観光施設として磨き上げ、子どもたちが楽しみながら遊び、学べる場とともに、次世代を担う人材育成の拠点として強化することで、将来的には佐賀県を代表する文化観光拠点として地域活性化や、佐賀県を拠点に宇宙・科学分野の第一線で活躍する人材を育成することによる地方創生を目指す。																																																			
事業概要	佐賀県立宇宙科学館宇宙発見ゾーン整備																																																			
交付対象事業費	332,200千円																																																			
KPI	<table><tr><th>KPI</th><th></th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>R9年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)</td><td>目標</td><td>202,995</td><td>232,995 (+30,000)</td><td>267,995 (+35,000)</td><td>277,995 (+10,000)</td><td>287,995 (+10,000)</td><td>292,995 (+5,000)</td><td>(+90,000)</td></tr><tr><td>実績</td><td>166,138</td><td>203,440 (+37,302)</td><td>267,594 (+64,154)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+101,456)</td></tr><tr><td rowspan="2">②幼稚園・保育園、小・中学校等の団体利用件数(件)</td><td>目標</td><td>470</td><td>480 (+10)</td><td>530 (+50)</td><td>570 (+40)</td><td>600 (+30)</td><td>620 (+20)</td><td>(+150)</td></tr><tr><td>実績</td><td>470</td><td>575 (+105)</td><td>593 (+18)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>— (—)</td><td>(+105)</td></tr></table>									KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計	①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)	目標	202,995	232,995 (+30,000)	267,995 (+35,000)	277,995 (+10,000)	287,995 (+10,000)	292,995 (+5,000)	(+90,000)	実績	166,138	203,440 (+37,302)	267,594 (+64,154)	— (—)	— (—)	— (—)	(+101,456)	②幼稚園・保育園、小・中学校等の団体利用件数(件)	目標	470	480 (+10)	530 (+50)	570 (+40)	600 (+30)	620 (+20)	(+150)	実績	470	575 (+105)	593 (+18)	— (—)	— (—)	— (—)	(+105)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計																																												
①佐賀県立宇宙科学館の入館者数(人)	目標	202,995	232,995 (+30,000)	267,995 (+35,000)	277,995 (+10,000)	287,995 (+10,000)	292,995 (+5,000)	(+90,000)																																												
	実績	166,138	203,440 (+37,302)	267,594 (+64,154)	— (—)	— (—)	— (—)	(+101,456)																																												
②幼稚園・保育園、小・中学校等の団体利用件数(件)	目標	470	480 (+10)	530 (+50)	570 (+40)	600 (+30)	620 (+20)	(+150)																																												
	実績	470	575 (+105)	593 (+18)	— (—)	— (—)	— (—)	(+105)																																												

効果検証シート【3 ICTを活用した「佐賀牛」の生産教育施設整備事業(R4年度)】

事業目的	「佐賀牛」のブランド力の維持強化及び農村地域における雇用増など農業を中心とした好循環を目指す。								
事業概要	農業大学校に新しいモデル牛舎一式を建設し、大型作業機械やICT機器を活用した省力化と温暖化による夏場の高温事故防止、近年問題となっている家畜伝染病予防に対応した新たな和牛繁殖及び肥育の高度な飼養管理技術を実証し、繁殖農家、肥育農家、関係機関への情報発信とセミナーを通して、繁殖農家の規模拡大や肥育農家の繁殖肥育一貫経営への移行を促すことで所得向上と経営安定化を図る。				佐賀牛の振興を図るうえでの農業大学校(佐賀牛教育施設)の位置づけ 				
交付対象事業費	272,607千円								
KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	①肥育素牛の県内自給率(%)	目標	29.60	29.60 (+0.00)	30.06 (+0.46)	30.52 (+0.46)	30.98 (+0.46)	31.44 (+0.46)	(+1.84)
		実績	29.60	29.30 (▲0.30)	28.50 (▲0.80)	27.06 (▲1.44)	—	—	(▲2.54)
	②繁殖牛1戸当たり飼養頭数(頭)	目標	22.30	22.30 (+0.00)	23.50 (+1.20)	24.70 (+1.20)	25.90 (+1.20)	27.10 (+1.20)	(+4.80)
		実績	22.30	24.60 (+2.30)	25.40 (+0.80)	24.51 (▲0.89)	—	—	(+2.21)

効果検証シート【4 北山湖エリア自然体験施設再整備事業～こどもの声がこだまする 新しい日常を契機とした地域活性化プロジェクト～ (R4年度)】

事業目的	・県内及び近県からの施設利用者の増加 ・施設の収益向上								
事業概要	本県の豊かな自然を活かし、大空のもと多彩な自然体験などを楽しむスタイル「OPEN-AIR佐賀」環境整備の一環として、北山キャンプ場と21世紀県民の森を、“車で近い”滞在型自然体験のできる県営キャンプ場として整備する。								
交付対象事業費	386,541千円								
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	①北山キャンプ場 利用者数(人)	目標	7,555	利用なし (0)	13,555 (+6,000)	16,555 (+3,000)	17,555 (+1,000)	18,555 (+1,000)	(+11,000)
		実績	7,555	利用なし (0)	8,197 (+642)	12,807 (+4,610)	— (—)	— (—)	(+5,252)
	②北山キャンプ場 利用料収入(百万円)	目標	0	利用なし (0)	10 (+10)	15 (+5)	17 (+2)	19 (+2)	(+19)
		実績	0	利用なし (0)	15 (15)	23 (+8)	— (—)	— (—)	(+23)
	③21世紀県民の 森施設利用料収入(百万円)	目標	16	16 (0)	17 (+1)	18 (+1)	19 (+1)	20 (+1)	(+4)
		実績	16	15 (▲1.0)	19 (+4.0)	18 (▲1.0)	— (—)	— (—)	(+2.0)

効果検証シート【くすかぜ広場再整備事業 ～まちの賑わい創出・地域活性化プロジェクト～ (R3年度)】

事業目的	佐賀市中心市街地の結節点にある「くすかぜ広場」を、周辺を歩き、憩い、集う拠点として再整備し、民間の力で広場を活用することにより、徒歩や自転車、公共交通機関による両エリアの往来を活性化させ、経済の活性化や文化資源の活用、さらには移住定住促進につなげることを目指す。								
事業概要	くすかぜ広場整備（交流施設等、芝生広場、大屋根（日除け）、移動販売車販売スペース）								
交付対象事業費	274,360千円								
KPI 上段:実績値 下段():増加分	KPI		事業開始前	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	累計
	①交流施設管理者の事業（飲食、物品貸出等）の売上（万円）	目標	0	0 (+0)	3,000 (+3,000)	6,000 (+3,000)	9,000 (+3,000)	12,000 (+3,000)	(+12,000)
		実績	0	0 (+0)	2,053 (+2,053)	3,251 (+1,198)	7,101 (+3,850)	－ (－)	(+7,101)
	②くすかぜ広場への来訪者数（人）	目標	0	0 (+0)	98,400 (+98,400)	196,800 (+98,400)	295,200 (+98,400)	393,600 (+98,400)	(+393,600)
		実績	0	0 (+0)	40,795 (+40,795)	86,502 (+45,707)	132,602 (+46,100)	－ (－)	(+132,602)

事業目的	アバンセ（男女共同参画センター及び生涯学習センター）の利用申込は電話で仮予約したのち、申請書の提出（メール・郵送可）により行っている。施設の空き状況がリアルタイムで確認できず、利用者は開館時間中に電話により空き状況の確認と仮予約を行ったのち、申請書を作成・提出する必要がある、大きな負担となっている。このため、インターネットによる公共施設予約システムを導入し、スマートフォン等により「いつでもどこでも」予約できるようにすることで利用者の利便性の向上を図る。																									
事業概要	【施設予約システムの導入】 ・利用者がパソコンやスマートフォンからインターネットを利用して、アバンセの空き状況の確認や予約、利用許可証や領収証などを受け取れるサービスの提供。																									
交付対象事業費	1,144千円																									
KPI	<table><thead><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">①予約システム使用率（％）</td><td>目標</td><td>0</td><td>10.0 （+10.0）</td><td>12.5 （+2.5）</td><td>15.0 （+2.5）</td><td>（+15.0）</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>2.86 （+2.86）</td><td>－</td><td>－</td><td>（+2.86）</td></tr></tbody></table>		KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	①予約システム使用率（％）	目標	0	10.0 （+10.0）	12.5 （+2.5）	15.0 （+2.5）	（+15.0）	実績	0	2.86 （+2.86）	－	－	（+2.86）				
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																				
①予約システム使用率（％）	目標	0	10.0 （+10.0）	12.5 （+2.5）	15.0 （+2.5）	（+15.0）																				
	実績	0	2.86 （+2.86）	－	－	（+2.86）																				

KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">②アカウント登録件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>68 (+8)</td><td>75 (+7)</td><td>(+75)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>44 (+44)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+44)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">③予約システム利用者満足度(ポイント)</td><td>目標</td><td>0</td><td>2.5 (+2.5)</td><td>3.0 (+0.5)</td><td>3.5 (+0.5)</td><td>(+3.5)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>3.4 (+3.4)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+3.4)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	②アカウント登録件数(件)	目標	0	60 (+60)	68 (+8)	75 (+7)	(+75)	実績	0	44 (+44)	—	—	(+44)	③予約システム利用者満足度(ポイント)	目標	0	2.5 (+2.5)	3.0 (+0.5)	3.5 (+0.5)	(+3.5)	実績	0	3.4 (+3.4)	—	—	(+3.4)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																																	
②アカウント登録件数(件)	目標	0	60 (+60)	68 (+8)	75 (+7)	(+75)																																	
	実績	0	44 (+44)	—	—	(+44)																																	
③予約システム利用者満足度(ポイント)	目標	0	2.5 (+2.5)	3.0 (+0.5)	3.5 (+0.5)	(+3.5)																																	
	実績	0	3.4 (+3.4)	—	—	(+3.4)																																	
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・KPI③については、目標値を達成したが、KPI①及び②についてはシステムを導入して間もなく、周知や広報期間が短く、未達成となった。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、アバンセの予約をWEBで行えるような施設予約システムの導入を行った。施設の空き状況がリアルタイムで確認でき、WEBでの予約ができるようになり、利用者の利便性向上につながった。 ・予約システムの利用率とアカウント登録件数は未達成となったものの、予約システム利用者満足度は高いことから利用者向けの周知が不足していると考えられる。 ・当該施設の広報誌への掲載や施設利用者への窓口でのシステム利用に向けたチラシ配布などを行い、周知を図る予定である。																																						

効果検証シート【スカイパトロール監視事業(R6年度)】

事業目的	通常の地上からの監視では、産業廃棄物最終処分場の全体像や廃棄物の不法投棄、野外焼却等の不適正処理状況の把握は難しいことから、監視用ドローンとデータ解析用パソコンを使用し、適宜、広域的な監視を実施することで、廃棄物の不適正処理事案の発生抑制及び初期段階での解決を図り、快適な生活環境の維持・保全を目指す。																									
事業概要	【ドローン撮影体制構築】 ・県内の最終処分場（28か所）において、ドローン撮影を行い、解析用パソコンで画像解析を行うことで、不適切な埋立処分がなされていないか確認する。 ・ドローン解析データを業者が毎年度提出する産業廃棄物処分実績報告書等と突合することで、届出内容に虚偽がないか確認する。 ・不適正な埋立処分が確認された場合の業者が実施する改善措置の進捗状況について、ドローン撮影により確認する。																									
交付対象事業費	2,483千円																									
KPI	<table><tr><th>KPI</th><th></th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①ドローンを活用した最終処分場への立入検査回数(回)</td><td>目標</td><td>0</td><td>28 (+28)</td><td>28 (±0)</td><td>28 (±0)</td><td>(+28)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>34 (+34)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+34)</td></tr></table>		KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	①ドローンを活用した最終処分場への立入検査回数(回)	目標	0	28 (+28)	28 (±0)	28 (±0)	(+28)	実績	0	34 (+34)	—	—	(+34)				
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																				
①ドローンを活用した最終処分場への立入検査回数(回)	目標	0	28 (+28)	28 (±0)	28 (±0)	(+28)																				
	実績	0	34 (+34)	—	—	(+34)																				

KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">②ドローン操縦者の増加(人)</td><td>目標</td><td>0</td><td>4 (+4)</td><td>6 (+2)</td><td>8 (+2)</td><td>(+8)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>10 (+10)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+10)</td></tr><tr><td rowspan="2">③重点監視する最終処分場の数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>2 (+2)</td><td>1 (▲1)</td><td>0 (▲1)</td><td>(0)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>2 (+2)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+2)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	②ドローン操縦者の増加(人)	目標	0	4 (+4)	6 (+2)	8 (+2)	(+8)	実績	0	10 (+10)	—	—	(+10)	③重点監視する最終処分場の数(件)	目標	0	2 (+2)	1 (▲1)	0 (▲1)	(0)	実績	0	2 (+2)	—	—	(+2)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																																	
②ドローン操縦者の増加(人)	目標	0	4 (+4)	6 (+2)	8 (+2)	(+8)																																	
	実績	0	10 (+10)	—	—	(+10)																																	
③重点監視する最終処分場の数(件)	目標	0	2 (+2)	1 (▲1)	0 (▲1)	(0)																																	
	実績	0	2 (+2)	—	—	(+2)																																	
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・すべての項目で目標値を達成した。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、監視用ドローンとデータ解析用パソコンを導入し、適宜、産業廃棄物最終処分場の広域的な監視を実施することで、廃棄物の不適正処理事案の発生抑制につながった。 ・すべての項目で目標値を達成したもの、本事業の周知対象である産業廃棄物最終処分業者への周知方法をよりよいものにしていく必要がある。本事業の趣旨や空撮データの提供等を視覚的に理解できる最終処分業者向けのチラシを作成し、事業者の理解促進に努めていく。																																						

効果検証シート【建設DX加速化事業費補助事業(R6年度)】

事業目的	ICT機器等を導入する県内建設業者等に対して必要経費の一部を補助することにより、建設DXを加速し技術力・生産性向上を通じて労働力不足の改善、処遇改善や魅力向上を図る。また、補助を受ける企業に対して従業員の賃金引上げを条件とすることから、業界のイメージ向上及び新規入職の増加や離職防止への効果も期待している。	
事業概要	【ICT機器等を導入する業者に対する補助】 ・対象事業者 県内に主たる事業所を有し、佐賀県建設工事等入札参加資格を有する建設業者及びコンサルタント ・対象経費 ICT機器等の購入に要する経費 ・補助率 2/3以内 ・補助上限額 ICT建設機械（後付け機器含む）：3,000千円 3次元測量機器（ドローン含む）：2,000千円 ・事業規模 40,000千円 （@3,000千円×10件、2,000千円×5件） ・補助要件 賃金引上げ	佐賀県 STEP1 ICT機器等の導入補助 STEP2 ICT機器等の普及・促進 建設業界の生産性向上
交付対象事業費	40,000千円	

KPI	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	①県発注工事におけるICT活用工事件数（件）	目標	0	60 (+60)	70 (+10)	80 (+10)	(+80)
		実績	0	63 (+63)	—	—	(+63)
	②ICT活用工事による延べ作業期間削減率（%）	目標	0	1.5 (+1.5)	1.75 (+0.25)	2.0 (+0.25)	(+2.0)
		実績	0	1.1 (+1.1)	—	—	(+1.1)
現状や課題 （阻害要因の把握・分析・対応）	【KPIの達成状況】 ・KPI①については、目標値を達成したが、KPI②については未達成となった。要因としては、ICT活用工事による延べ作業期間削減率が低い作業を行った業者の作業時間が他業者より多かったことにより、計算上全体削減率が引き下げられたことが考えられる。翌年度以降の工事では目標達成できるように注視していきたい。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、ICT機器等を導入する県内建設業者等に対して必要経費の一部を補助することにより、建設DXを加速し技術力・生産性向上を通じて労働力不足の改善、処遇改善や魅力向上を図ることができた。 ・令和6年度については、見込み（予算額）を超える補助金申請があり、「佐賀県建設業DX加速化事業補助金事業」の実施についての周知は、概ね達成できていると考える。今後は、本補助金の補助事業者で、「佐賀県ICT活用工事」の施工を行った建設業者による講演会を開催し、ICT活用工事の実例及び効果の共有を行うことで、これまで、本補助事業を認知しているが、建設ICT建機等の導入活用に踏み切れていない建設業者等に対しても、建設ICT建機等の導入活用の促進を図っていくこととしている。						

効果検証シート【SAGAキャッシュレスチャレンジ事業(R6年度)】

事業目的	インバウンドをはじめキャッシュレスのニーズが一層高まる中、本県ではキャッシュレスの普及が伸び悩んでおり、事業者にとっては機会損失や生産性の低下等、消費者にとっては利便性の低下等を招いている。今回、県内の金融機関チームと連携し、キャッシュレス推進体制を構築することで、県内のキャッシュレス化を推進し、消費者の利便性向上とともに事業者のインバウンド需要の取込みや業務効率化につなげる。																									
事業概要	【金融機関チームとの推進体制の構築】 ・ 事業者への経営面でのメリットの説明を金融機関職員が実施 ・ 入金サイクルの短縮化が可能 ・ 取扱いのブランドが豊富 など、普及の課題を金融機関と連携することで解決。 【キャッシュレス端末機の導入補助】 端末機の導入にかかる初期費用の一部を補助。事業者の負担を軽減し、キャッシュレス化を加速化させる。 ・ 導入にかかる初期費用を補助 ・ 県内1,200店舗が対象 ・ 申請事業者へステッカーを交付し事業を促進																									
交付対象事業費	28,648千円																									
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①キャッシュレス端末機を導入した店舗（店舗・事業所）</td><td>目標</td><td>0</td><td>1,200 (+1,200)</td><td>3,000 (+1,800)</td><td>5,000 (+2,000)</td><td>(+5,000)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>1,016 (+1,016)</td><td>—</td><td>—</td><td>(+1,016)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計	①キャッシュレス端末機を導入した店舗（店舗・事業所）	目標	0	1,200 (+1,200)	3,000 (+1,800)	5,000 (+2,000)	(+5,000)	実績	0	1,016 (+1,016)	—	—	(+1,016)
KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計																				
①キャッシュレス端末機を導入した店舗（店舗・事業所）	目標	0	1,200 (+1,200)	3,000 (+1,800)	5,000 (+2,000)	(+5,000)																				
	実績	0	1,016 (+1,016)	—	—	(+1,016)																				

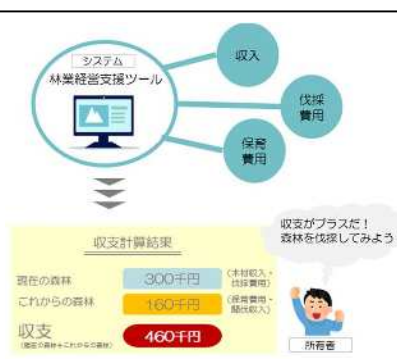
KPI	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	②キャッシュレス端末機導入後の端末継続利用率(%)	目標	0	100 (+100)	100 (0)	100 (0)	(+100)
		実績	0	99 (+99)	—	—	(+99)
	③キャッシュレス端末機導入後のキャッシュレス決済利用率(%)	目標	0	25 (+25)	35 (+10)	45 (+10)	(+45)
		実績	0	16 (+16)	—	—	(+16)
	④決済種類の拡充を行った店舗におけるキャッシュレス決済利用率(%)	目標	0	35 (+35)	45 (+10)	55 (+10)	(+55)
		実績	0	24 (+24)	—	—	(+24)
	⑤キャッシュレス端末機を導入した加盟店の満足度(割)	目標	0	未設定	6 (+6)	7 (+1)	(+7)
		実績	0	—	—	—	
	⑥決済種類の拡充を行った店舗の満足度(割)	目標	0	未設定	6 (+6)	7 (+1)	(+7)
		実績	0	—	—	—	
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・初年度のKPIを未設定とした⑤⑥以外については、すべて未達成となった。導入希望調査時は、目標値を超える1,600件以上の希望があったが、決済手数料に対する拒否感や操作方法等への不安感がぬぐえなかった先が一定数あり、説明・説得に想定以上の時間を要したことが要因。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、県内の金融機関チームと連携し、キャッシュレス推進体制を構築することで、県内のキャッシュレス化を推進し、消費者の利便性向上とともに事業者のインバウンド需要の取込みや業務効率化につなげることができた。 ・今後はさらに事業者に対し、キャッシュレス化のメリットの説明や機器の取扱いについての説明会等を行い、理解を深めるとともに、導入先の導入効果を数値的に検証し、効果を訴えていくなどして、目標値達成に向け事業推進を図っていく。						

効果検証シート【SAGAスマート漁業実装支援プロジェクト(R6年度)】

事業目的	本県の漁業を取り巻く環境は、漁業就業者の高齢化や後継者不足、燃料高騰による収益率の減少など厳しさを増している。特に主産業が漁業である離島ではその影響が大きい。そこで、水中ドローンなどのデジタル技術を活用したスマート漁業の実装により、漁場の効率的な再生に向けた取り組みや軽労化等を通じた生産性向上を図り、魅力ある稼げる漁業を推進する。	
事業概要	【水中ドローンの先端技術の導入支援】 佐賀の地域課題をスマート技術を活用して解決するために佐賀県、唐津市、佐賀大学、九州電力での産学官連携で結成しているコンソーシアムにおいて、漁業者に対し漁獲量を向上させるためのデジタル実装サービスに取り組む。 ・ドローン及び水中ドローンを使用した水産資源把握 現状漁業者が海に入って魚介類の育成状況などの水産資源の把握をしていたが、高齢化と体力的な問題で継続することが困難である悩みを空飛ぶドローンのレーザー解析による海底形状の3Dデータを作成し、定置網の設置場所の見直しを行ったり、水中ドローンで海中を撮影し、水産資源生息状況をマッピング化することでガンガゼ駆除等の効率化を図る。 ・漁業用水中ドローンの導入支援・操縦技術取得支援 漁業者自身で漁場の資源把握を行うことができるようにするために、可搬型水中ドローンの購入費用の補助や、操縦訓練等を行い技術習得の支援を行う。 ・藻場再生のための植藻サービス 漁場の藻場再生のために、藻の種を付着させたりサイクルマテリアルに海中に沈め育成し、藻の育成上状況把握のために水中ドローンによる近海の遠隔監視技術サービスやカメラや溶存酸素濃度計を用いた藻場の現存量だけでなく海洋生態系全体のCO2削減効果の科学的データを計測することで、効果検証を図り、継続した取り組みにつなげる。	
交付対象事業費	8,459千円	

KPI	KPI		事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
	①漁業用水中ドローンの配備総数(台)	目標	0	1 (+1)	2 (+1)	3 (+1)	(+3)
		実績	0	1 (+1)	—	—	(+1)
	②水中ドローン操縦技術講習受講者数(人)	目標	0	2 (+2)	4 (+2)	7 (+3)	(+7)
		実績	0	10 (+10)	—	—	(+10)
	③藻場再生の取組面積数(ha)	目標	0	0.25 (+0.25)	0.50 (+0.25)	0.75 (+0.25)	(+0.75)
		実績	0	0.25 (+0.25)	—	—	(+0.25)
	④唐津市離島の生産年齢人口の減少率(%)	目標	0	7 (+7)	6 (▲1)	4 (▲2)	4 (+4)
		実績	0	7 (+7)	—	—	(+7)
	⑤玄海漁業魚市場の水揚げ量(ウニ・アワビ・サザエ)の前年度比減少率(%)	目標	0	14 (+14)	12 (▲2)	10 (▲2)	10 (+10)
		実績	0	12 (+12)	—	—	(+12)
現状や課題 (阻害要因の把握・分析・対応)	【KPIの達成状況】 ・すべての項目で目標値を達成した。 【現状・課題・今後の方向性】 ・令和6年度は、コンソーシアムが主体となって漁業者と協力し、水中ドローンなどのデジタル技術を活用したスマート漁業の実装を行い、漁場の効率的な再生や軽労化等を通じた生産性向上を図ることができた。 ・すべての項目で目標値を達成することができたものの、事業の実施に時間を要したため、本事業の取組を発信する広報について効果的な時間を確保することができなかった点が課題としてあげられる。 ・今後は、漁業者の意思に寄り添った効果的な広報を行い、本取組の認知度向上を図りたい。						

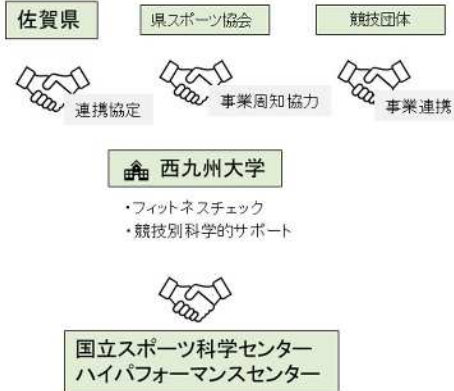
効果検証シート【サガンスギの森林100年構想事業(R5年度)】

事業目的	成長が早く、強度があり、花粉が少ないサガンスギに対する森林所有者等の要望が高まる中、早期にサガンスギ苗木を普及させ、サガンスギの森林を増やし、100年で県内スギ林のすべてをサガンスギにする。サガンスギの森林を増やしていくためには、収穫時期を迎えた森林の伐採を促進する必要がある、林業経営支援システムを開発し、森林所有者などへ伐採意欲を促すための働きかけを行う。																									
事業概要	【林業経営支援サービス】 ・森林所有者が手軽に使える森林の収支を算定 ・森林所有者の伐採意欲の向上 ・サガンスギによる低コスト植林の推進 【林業経営支援システム】 ・伐採によって得られる収入の算出 ・伐採に要する経費の算出 ・伐採後の植林に要する経費の算出 ・植林後の下草刈りなどの管理に要する経費の算出																									
交付対象事業費	9,999千円																									
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①林業経営支援システムの利用者数(閲覧数)</td><td>目標</td><td>0</td><td>20 (+20)</td><td>200 (+180)</td><td>210 (+10)</td><td>(+210)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>11 (+11)</td><td>43 (+32)</td><td>—</td><td>(+43)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①林業経営支援システムの利用者数(閲覧数)	目標	0	20 (+20)	200 (+180)	210 (+10)	(+210)	実績	0	11 (+11)	43 (+32)	—	(+43)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
①林業経営支援システムの利用者数(閲覧数)	目標	0	20 (+20)	200 (+180)	210 (+10)	(+210)																				
	実績	0	11 (+11)	43 (+32)	—	(+43)																				

効果検証シート【サガンスギの森林100年構想事業(R5年度)】

KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">②システムを利用してサガンスギを植林した面積(ha/年)</td><td>目標</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>24 (+21)</td><td>27 (+3)</td><td>(+27)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>17 (+14)</td><td>—</td><td>(+17)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	②システムを利用してサガンスギを植林した面積(ha/年)	目標	0	3 (+3)	24 (+21)	27 (+3)	(+27)	実績	0	3 (+3)	17 (+14)	—	(+17)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
②システムを利用してサガンスギを植林した面積(ha/年)	目標	0	3 (+3)	24 (+21)	27 (+3)	(+27)																				
	実績	0	3 (+3)	17 (+14)	—	(+17)																				

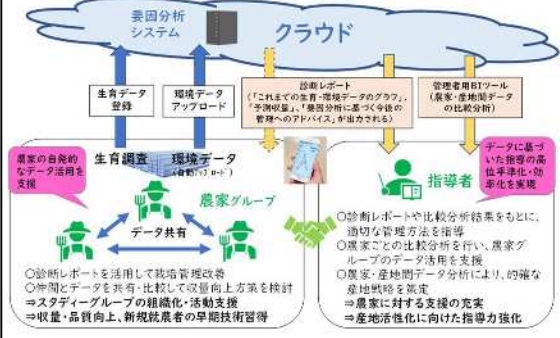
効果検証シート【SSPスポーツ科学大学連携設備整備費補助(R5年度)】

事業目的	国立スポーツ科学センター（JISS）及びその連携施設と同等のクオリティを持ったフィットネスチェック体制及び個別競技科学的サポート体制を構築することで、佐賀県にしながら国内のトップアスリートとデータ比較することができるようになり、効率よくアスリート、特にジュニア世代の身体能力の底上げにつながる。																									
事業概要	【フィットネスチェック体制の構築】 ・身体組成 ・筋力・筋パワー ・運動能力 ・エネルギー産生能力 以上の項目を測定し、国内トップアスリートのデータと比較することで、身体能力の底上げを図る 【競技別科学的サポート体制構築】 運動の基礎である走・投・跳を科学的に分析し、トレーニングに生かすことで、競技力向上を図るため以下の項目を測定 ・接地時間及びストライド、ピッチ測定 ・疾走速度の測定 ・疾走フォームの測定 ・最大酸素摂取量の測定 ・無酸素持久力の測定																									
交付対象事業費	76,221千円																									
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①フィットネスチェックを行った参加者数（人/年）</td><td>目標</td><td>0</td><td>500 (+500)</td><td>600 (+100)</td><td>700 (+100)</td><td>(+700)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>196 (+196)</td><td>277 (+81)</td><td>－</td><td>(+277)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①フィットネスチェックを行った参加者数（人/年）	目標	0	500 (+500)	600 (+100)	700 (+100)	(+700)	実績	0	196 (+196)	277 (+81)	－	(+277)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
①フィットネスチェックを行った参加者数（人/年）	目標	0	500 (+500)	600 (+100)	700 (+100)	(+700)																				
	実績	0	196 (+196)	277 (+81)	－	(+277)																				

効果検証シート【SSPスポーツ科学大学連携設備整備費補助(R5年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計
	②競技別科学的サポートを受けた選手数（人/年）	目標	0	500 (+500)	600 (+100)	700 (+100)	(+700)
		実績	0	198 (+198)	305 (+107)	—	(+305)
	③トレーニング/運動の変化項目数（項目）	目標	0	1 (+1)	2 (+1)	3 (+1)	(+3)
		実績	0	2 (+2)	3 (+1)	—	3 (+3)
	④フィットネスチェック測定アスリートの満足度（%）	目標	0	60 (+60)	70 (+10)	80 (+10)	(+80)
		実績	0	87 (+87)	80 (▲7)	—	(+80)
	⑤競技別科学的サポートを受けたアスリートの満足度（%）	目標	0	60 (+60)	70 (+10)	80 (+10)	(+80)
		実績	0	87 (+87)	80 (▲7)	—	(+80)

効果検証シート【施設園芸DX推進プロジェクト(R5年度)】

事業目的	佐賀県では、施設園芸（主にキュウリ）において、温度や湿度、日射量などの環境データを計測し、生産に活かされているが、その活用範囲は施設ごと、農家ごとなど限定的である。本事業において、これらの環境データをクラウド上に集約して地域全体で共有するとともに、集約された環境データの分析結果に基づく栽培管理や営農指導を支援するクラウド型営農支援システムを完成させる。また、このシステムを県内の施設園芸農家及び指導機関に実装するとともに、環境データの分析結果を活用して営農指導を行う人材育成や指導体制の整備を合わせて行うことで、施設園芸の生産性・収益性を向上させる。																									
事業概要	【クラウド型営農支援システム】 ・農家圃場に設置されているICT機器が経時的に取得する環境データや生育データをクラウド上に集約し、農家間で共有できるプラットフォームを提供 ・システム内のBIツールにより、複数の圃場で収集した環境データの比較分析や、作業記録の一元管理が可能					 クラウド型営農支援システムフロー図 クラウド上に集約された環境データと生育データは、農家の自然的なデータ活用を支援し、データ共有を促進する。農家グループは、データ共有を通じて、診断レポートを活用して栽培管理改善、仲間とデータを共有・比較して収益向上方法を検討、スタディーグループの組織化・活動支援、収量・品質向上、新規就農者の早期技術習得を実現する。 指導者は、データに基づいた指導の高度化・効率化を実現し、診断レポートや比較分析結果をもとに、適切な管理方法を指導、農家ごとの比較分析を行い、農家グループのデータ活用を支援、農家・産地間データ分析により、的確な産地戦略を策定、農家に対する支援の充実、産地活性化に向けた指導力強化を実現する。																				
交付対象事業費	20,331千円																									
KPI	<table><thead><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">①クラウド型営農支援システムの利用者数（人）</td><td>目標</td><td>0</td><td>30 (+30)</td><td>70 (+40)</td><td>150 (+80)</td><td>(+150)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>38 (+38)</td><td>63 (+25)</td><td>—</td><td>(+63)</td></tr></tbody></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①クラウド型営農支援システムの利用者数（人）	目標	0	30 (+30)	70 (+40)	150 (+80)	(+150)	実績	0	38 (+38)	63 (+25)	—	(+63)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
①クラウド型営農支援システムの利用者数（人）	目標	0	30 (+30)	70 (+40)	150 (+80)	(+150)																				
	実績	0	38 (+38)	63 (+25)	—	(+63)																				

効果検証シート【施設園芸DX推進プロジェクト(R5年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計
	②指導者育成研修の受講者数（人）	目標	0	17 (+17)	34 (+17)	51 (+17)	(+51)
		実績	0	22 (+22)	46 (+24)	—	(+46)
	③施設園芸（キュウリ）農家1戸当たりの生産量（t/戸）	目標	0	48.3 (+48.3)	50.0 (+1.7)	53.0 (+3.0)	(53.0)
		実績	0	46 (+46)	46 (±0)	—	(+46)
	④クラウド型営農支援システムの利用満足度（%）	目標	0	50 (+50)	60 (+10)	80 (+20)	(+80)
		実績	0	64 (+64)	75 (+11)	—	(+75)

効果検証シート【SAGA2024競技会を楽しむ環境づくり事業(R5年度)】

事業目的	佐賀県では、2024年のSAGA2024（国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会）開催に向け、県民がスポーツを楽しむ環境づくりを進めている。特に、県民がスポーツを「観る」文化を醸成するため、身近な学生スポーツ等多くのスポーツシーンのオンライン配信の実現を目指している。 本事業では、ICT技術を活用した効率的なスポーツオンライン配信の仕組み構築を実施し、県内の多くのスポーツを「観る」環境づくりを推進する。また、本事業を県民参加型とすることで、今までに無い視点から県民がスポーツに興味を持つ新たなきっかけ作りを行い、佐賀県のスポーツ文化の裾野拡大を図る。																									
事業概要	【動画配信サポート】 ・撮影・配信機材の貸出 県内スポーツ大会の主催者等がスポーツオンライン配信を気軽に実施できるよう撮影・配信機材の貸出を実施 ・研修会・練習会実施 県民向けスポーツオンライン配信研修会や実際のスポーツシーンでの練習会等を実施																									
交付対象事業費	34,825千円																									
KPI	<table><tr><th>KPI</th><th></th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①研修会・練習会参加者数（人）</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>90 (+30)</td><td>100 (+10)</td><td>(+100)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>228 (+228)</td><td>641 (+413)</td><td>—</td><td>(+641)</td></tr></table>		KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①研修会・練習会参加者数（人）	目標	0	60 (+60)	90 (+30)	100 (+10)	(+100)	実績	0	228 (+228)	641 (+413)	—	(+641)				
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
①研修会・練習会参加者数（人）	目標	0	60 (+60)	90 (+30)	100 (+10)	(+100)																				
	実績	0	228 (+228)	641 (+413)	—	(+641)																				

効果検証シート【SAGA2024競技会を楽しむ環境づくり事業(R5年度)】

KPI	<table><thead><tr><th>KPI</th><th></th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">②スポーツ動画配信数（配信）</td><td>目標</td><td>0</td><td>50 (+50)</td><td>100 (+50)</td><td>100 (+0)</td><td>(+100)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>81 (+81)</td><td>175 (+94)</td><td>—</td><td>(+175)</td></tr><tr><td rowspan="2">③配信動画視聴者数（人）</td><td>目標</td><td>0</td><td>250,000 (+250,000)</td><td>300,000 (+50,000)</td><td>400,000 (+100,000)</td><td>(+400,000)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>610,200 (+610,200)</td><td>2,251,000 (+1,640,800)</td><td>—</td><td>(+2,251,000)</td></tr><tr><td rowspan="2">④研修会・練習会参加者及び機材貸出利用者の満足度（%）</td><td>目標</td><td>0</td><td>80 (+80)</td><td>90 (+10)</td><td>100 (+10)</td><td>(+100)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>100 (+100)</td><td>100 (±0)</td><td>—</td><td>(+100)</td></tr></tbody></table>		KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	②スポーツ動画配信数（配信）	目標	0	50 (+50)	100 (+50)	100 (+0)	(+100)	実績	0	81 (+81)	175 (+94)	—	(+175)	③配信動画視聴者数（人）	目標	0	250,000 (+250,000)	300,000 (+50,000)	400,000 (+100,000)	(+400,000)	実績	0	610,200 (+610,200)	2,251,000 (+1,640,800)	—	(+2,251,000)	④研修会・練習会参加者及び機材貸出利用者の満足度（%）	目標	0	80 (+80)	90 (+10)	100 (+10)	(+100)	実績	0	100 (+100)	100 (±0)	—	(+100)				
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																																														
②スポーツ動画配信数（配信）	目標	0	50 (+50)	100 (+50)	100 (+0)	(+100)																																														
	実績	0	81 (+81)	175 (+94)	—	(+175)																																														
③配信動画視聴者数（人）	目標	0	250,000 (+250,000)	300,000 (+50,000)	400,000 (+100,000)	(+400,000)																																														
	実績	0	610,200 (+610,200)	2,251,000 (+1,640,800)	—	(+2,251,000)																																														
④研修会・練習会参加者及び機材貸出利用者の満足度（%）	目標	0	80 (+80)	90 (+10)	100 (+10)	(+100)																																														
	実績	0	100 (+100)	100 (±0)	—	(+100)																																														

効果検証シート【電子申請等推進事業(R5年度)】

事業目的	LoGoフォーム(※)について、マイページ機能と自動連絡機能、オンライン決済機能を拡充し、行政手続のオンライン化を更に進め、より便利に、いつでもどこでも行政手続を完結できる環境を整備する。 ※簡単なマニュアルでどの職員でもwebフォームを作成できるサービス																									
事業概要	【LoGoフォームの機能拡充】 ・R4年度から導入 ・イベント参加申し込みやアンケート収集等の事務効率化を中心に活用 ・補助金等の行政手続の活用件数は少ない ・今年度、担当課に行政手続オンライン化の紹介をしたところ、担当課からは、次のように機能拡充を望む声 ✓申請不備を連絡する機能 ✓以前の回答の入力を省略する機能 ✓決定通知書を送付する機能 ・このような機能を拡充することで、より多くの行政手続のオンライン化を実現する																									
交付対象事業費	2,383千円																									
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①デジタル窓口に対応したオンライン手続数(手続数)</td><td>目標</td><td>0</td><td>5 (+5)</td><td>10 (+5)</td><td>15 (+5)</td><td>(+15)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>7 (+7)</td><td>17 (+10)</td><td>—</td><td>(+17)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	①デジタル窓口に対応したオンライン手続数(手続数)	目標	0	5 (+5)	10 (+5)	15 (+5)	(+15)	実績	0	7 (+7)	17 (+10)	—	(+17)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																				
①デジタル窓口に対応したオンライン手続数(手続数)	目標	0	5 (+5)	10 (+5)	15 (+5)	(+15)																				
	実績	0	7 (+7)	17 (+10)	—	(+17)																				

効果検証シート【電子申請等推進事業(R5年度)】

KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>の累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">②デジタル窓口を利用したオンライン申請に関する満足度(5段階評価の平均)</td><td>目標</td><td>0</td><td>3.0 (+3.0)</td><td>3.5 (+0.5)</td><td>4.0 (+0.5)</td><td>(+4.0)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>3.81 (+3.81)</td><td>3.5 (▲0.31)</td><td>—</td><td>(+3.5)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	の累計	②デジタル窓口を利用したオンライン申請に関する満足度(5段階評価の平均)	目標	0	3.0 (+3.0)	3.5 (+0.5)	4.0 (+0.5)	(+4.0)	実績	0	3.81 (+3.81)	3.5 (▲0.31)	—	(+3.5)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	の累計																				
②デジタル窓口を利用したオンライン申請に関する満足度(5段階評価の平均)	目標	0	3.0 (+3.0)	3.5 (+0.5)	4.0 (+0.5)	(+4.0)																				
	実績	0	3.81 (+3.81)	3.5 (▲0.31)	—	(+3.5)																				

効果検証シート【佐賀 Civil Society Organizations (市民社会組織) 誘致事業(R5年度)】

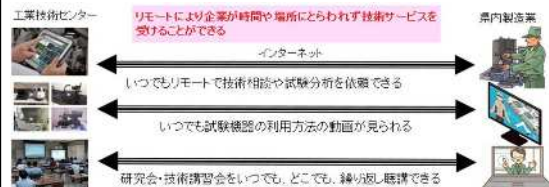
事業目的	行政の力だけでは実現が難しい、複雑・多様化する地域課題・社会課題（ex.災害支援、フードバンク、子どもの貧困、ウクライナ避難民支援、等）にきめ細かく対応するため、県外CSO等の誘致を推進するとともに、行政/CSO/企業等の新たな「つながり」を生み出す環境を整備する。						
事業概要	施設名：まちなかオフィスTOJIN館 住所：佐賀県佐賀市唐人二丁目5番15号 (1) 施設整備概要 民間運営施設の整備 まちなかのシェアオフィスの一部を改修し、県内外のNPO法人等の市民社会組織（Civil Society Organizations、以下「CSO」という。〔*〕）や企業等がテレワークできる環境を備えたワークスペース、共有スペースを整備 〔*〕市民が主体的に社会貢献活動を行う民間の非営利組織（志縁組織）及び地域住民で構成された地縁組織であって、NPO法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会、PTA、子ども会といった組織・団体を含む団体をいう。 (2) 施設の利用促進のためのプロジェクト推進 全国的にCSOが多く集まるイベントに参加（ブース出展負担金）			 外観			
交付対象事業費	5,288千円						
KPI	KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計
	①サテライトオフィス等施設を利用する企業数（社・団体）	目標	0	—	7 (+7)	12 (+5)	(+12)
		実績	0	9 (+9)	20 (+11)	—	(+20)
	②サテライトオフィス等施設を利用する企業における、所在都道府県外の企業数（社・団体）	目標	0	—	1 (+1)	3 (+2)	(+3)
		実績	0	2 (+2)	3 (+1)	—	(+3)

効果検証シート【佐賀 Civil Society Organizations (市民社会組織) 誘致事業(R5年度)】

KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">③ サテライトオフィス等施設の利用者数(人)</td><td>目標</td><td>0</td><td>—</td><td>1,400 (+1,400)</td><td>2,400 (+1,000)</td><td>(+2,400)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>2,310 (+2,310)</td><td>2,500 (+190)</td><td>—</td><td>(+2,500)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">④ サテライトオフィス等施設の利用者における、所在都道府県外の利用者数の割合(%)</td><td>目標</td><td>0</td><td>—</td><td>10 (+10)</td><td>30 (+20)</td><td>(+30)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>22 (+22)</td><td>15 (▲7)</td><td>—</td><td>(+15)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">⑤ 移住者数(人)</td><td>目標</td><td>0</td><td>—</td><td>375 (+375)</td><td>770 (+395)</td><td>(+770)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>440 (+440)</td><td>898 (+458)</td><td>—</td><td>(+898)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計	③ サテライトオフィス等施設の利用者数(人)	目標	0	—	1,400 (+1,400)	2,400 (+1,000)	(+2,400)	実績	0	2,310 (+2,310)	2,500 (+190)	—	(+2,500)	④ サテライトオフィス等施設の利用者における、所在都道府県外の利用者数の割合(%)	目標	0	—	10 (+10)	30 (+20)	(+30)	実績	0	22 (+22)	15 (▲7)	—	(+15)	⑤ 移住者数(人)	目標	0	—	375 (+375)	770 (+395)	(+770)	実績	0	440 (+440)	898 (+458)	—	(+898)
KPI		事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	累計																																														
③ サテライトオフィス等施設の利用者数(人)	目標	0	—	1,400 (+1,400)	2,400 (+1,000)	(+2,400)																																														
	実績	0	2,310 (+2,310)	2,500 (+190)	—	(+2,500)																																														
④ サテライトオフィス等施設の利用者における、所在都道府県外の利用者数の割合(%)	目標	0	—	10 (+10)	30 (+20)	(+30)																																														
	実績	0	22 (+22)	15 (▲7)	—	(+15)																																														
⑤ 移住者数(人)	目標	0	—	375 (+375)	770 (+395)	(+770)																																														
	実績	0	440 (+440)	898 (+458)	—	(+898)																																														

効果検証シート【工業技術センターDX推進事業(R4年度)】

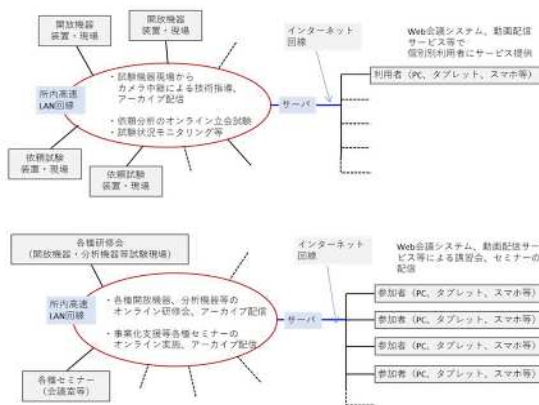
事業目的	センターのDXを推進することにより、センターへの来所に加え、「リモートによる相談対応、試験分析等」を実現し、県内の製造業の誰一人取り残さないデジタル原則による技術サービスを展開し、利用企業の効率性や利便性の向上を目指す																									
事業概要	工業技術センターは佐賀市に位置し、半径約60kmに及ぶ佐賀県全域の製造業に対して、技術サービス事業を展開している佐賀県立の工業系試験研究機関である。県内の製造業の将来を見据えて新しい技術の開発を目指す研究に積極的に取組むとともに、製品の不良や不具合問題、品質管理、生産技術の維持など、製造業の現場で日常的に発生する技術課題の解決のために、技術相談や試験分析等の技術支援に取り組んでいる。また、技術研究会や技術講習会、高度な試験分析機器の見学会・操作説明会等を実施して、技術者の育成や技術力向上を図っている。 これらの技術サービス事業は、これまでは、県内製造業からの来所を前提として実施してきたものであるが、今後は、都市部に負けない地方都市の実現に向けて、工業技術センターのDXを推進して、デジタル原則を遵守し、県内製造業の技術者が来所することなく、リモートから、誰もがいつでも、どこからでも技術サービスを受けられる体制を構築する。 具体的には、工業技術センター内に高速ネットワーク回線や動画配信システム及び監視カメラ等を整備し、 ・リモートで技術相談や試験分析を依頼、実施できる ・リモートで高度な試験機器の利用方法を事前に学習でき、企業の製品開発に機器を活用できる ・リモートで研究会、技術講習会等をいつでも、どこでも、繰り返し聴講できる体制を構築する。																									
交付対象事業費	26,235千円																									
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①リモートによる技術相談・試験分析の件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>120 (+60)</td><td>180 (+60)</td><td>(+180)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>16 (+16)</td><td>39 (+23)</td><td>69 (+30)</td><td>(+69)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①リモートによる技術相談・試験分析の件数(件)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)	実績	0	16 (+16)	39 (+23)	69 (+30)	(+69)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																				
①リモートによる技術相談・試験分析の件数(件)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)																				
	実績	0	16 (+16)	39 (+23)	69 (+30)	(+69)																				



効果検証シート【工業技術センターDX推進事業(R4年度)】

KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">②オンラインによる試験機器の利用動画の閲覧件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>30 (+30)</td><td>60 (+30)</td><td>90 (+30)</td><td>(+90)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>10 (+10)</td><td>1,425 (+1,415)</td><td>2,383 (+958)</td><td>(+2,383)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">③来所に要する移動時間の削減効果(時間)</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>120 (+60)</td><td>180 (+60)</td><td>(+180)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>57 (+57)</td><td>96 (+39)</td><td>311 (+215)</td><td>(+311)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">④機器利用方法の説明を受ける時間の短縮効果(時間)</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>120 (+60)</td><td>180 (+60)</td><td>(+180)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>20 (+20)</td><td>2,850 (+2,830)</td><td>4,766 (+1,916)</td><td>(+4,766)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">⑤工業技術センターの技術サービスに対する満足度(%)</td><td>目標</td><td>0</td><td>50 (+50)</td><td>60 (+10)</td><td>70 (+10)</td><td>(+70)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>0</td><td>0 (+0)</td><td>73 (+73)</td><td>86 (+13)</td><td>(+86)</td></tr> </tbody> </table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	②オンラインによる試験機器の利用動画の閲覧件数(件)	目標	0	30 (+30)	60 (+30)	90 (+30)	(+90)	実績	0	10 (+10)	1,425 (+1,415)	2,383 (+958)	(+2,383)	③来所に要する移動時間の削減効果(時間)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)	実績	0	57 (+57)	96 (+39)	311 (+215)	(+311)	④機器利用方法の説明を受ける時間の短縮効果(時間)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)	実績	0	20 (+20)	2,850 (+2,830)	4,766 (+1,916)	(+4,766)	⑤工業技術センターの技術サービスに対する満足度(%)	目標	0	50 (+50)	60 (+10)	70 (+10)	(+70)	実績	0	0 (+0)	73 (+73)	86 (+13)	(+86)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																																											
②オンラインによる試験機器の利用動画の閲覧件数(件)	目標	0	30 (+30)	60 (+30)	90 (+30)	(+90)																																																											
	実績	0	10 (+10)	1,425 (+1,415)	2,383 (+958)	(+2,383)																																																											
③来所に要する移動時間の削減効果(時間)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)																																																											
	実績	0	57 (+57)	96 (+39)	311 (+215)	(+311)																																																											
④機器利用方法の説明を受ける時間の短縮効果(時間)	目標	0	60 (+60)	120 (+60)	180 (+60)	(+180)																																																											
	実績	0	20 (+20)	2,850 (+2,830)	4,766 (+1,916)	(+4,766)																																																											
⑤工業技術センターの技術サービスに対する満足度(%)	目標	0	50 (+50)	60 (+10)	70 (+10)	(+70)																																																											
	実績	0	0 (+0)	73 (+73)	86 (+13)	(+86)																																																											

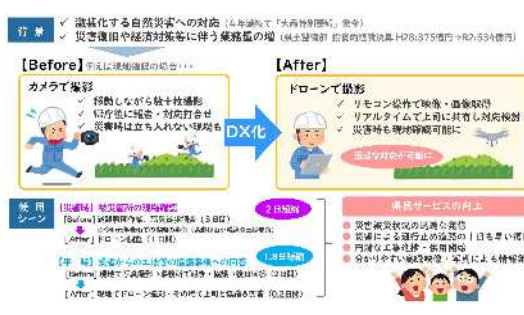
効果検証シート【窯業技術センターDX推進事業(R4年度)】

事業目的	来所前提の相談・機器操作指導をオンラインで実現し、企業の利便性を高めDXを支援する						
事業概要	佐賀県窯業技術センターは、地域に開かれた技術拠点として、県内窯業界の発展と振興のため、研究開発、技術支援、事業化支援、人材育成等に取り組んでいる研究機関である。本事業では、窯業技術センターが業務として実施している各種技術支援メニュー（技術相談、技術指導、試験機器利用、セミナー、講習会等）へのデジタル実装を行い、地域企業の商品開発や人材育成の効率化、スピードアップに寄与する。 <実装の内容> 〔試験機器の利用〕 ・試験機器操作法の研修、個別指導等のオンライン実施 ・オンライン立会い型依頼試験、試験状況のモニタリングサービスの実施。 ・オンラインでの依頼試験結果報告 ⇒Web会議システム、動画配信サービス等を活用 〔講習会・セミナー等〕 ・講習会、セミナーのオンライン実施、アーカイブ配信。 ⇒Web会議システム、動画配信サービス等を活用 〔技術相談・技術指導〕 ・オンラインによる技術相談、技術指導の実施、企業PCへの遠隔操作による製品設計指導。 ⇒Web会議システム、リモート操作ソフトウェアを活用						
交付対象事業費	10,832千円						
KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①オンラインを活用した試験機器の利用数(件)	目標	0	10 (+10)	40 (+30)	100 (+60)	(+100)
		実績	0	11 (+11)	21 (+10)	164 (+143)	(+164)
	②セミナー、研修会等のオンラインでの受講者数(人)	目標	0	30 (+30)	150 (+120)	350 (+200)	(+350)
		実績	0	48 (+48)	162 (+114)	460 (+298)	(+460)

効果検証シート【窯業技術センターDX推進事業(R4年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	③オンラインでの技術相談、指導件数(件)	目標	0	10 (+10)	80 (+70)	180 (+100)	(+180)
		実績	0	15 (+15)	23 (+8)	39 (+16)	(+39)
	④窯業技術センターの支援サービスに対する満足度(%)	目標	0	50 (+50)	60 (+10)	80 (+20)	(+80)
		実績	0	100 (+100)	92 (▲8)	81 (▲11)	(+81)

効果検証シート【 県土整備DX推進事業(R4年度)】

事業目的	佐賀県の土木部局において、汎用性に優れ、遠隔操作が可能なドローン機器、及びドローンの操縦者（※国土交省の許可承認による飛行可能）を実装することで、課題の解決、将来像の実現を目指す。						
事業概要	佐賀県では近年、4年連続の大雨特別警報や低平地における大規模な浸水被害等、災害が頻発化・激甚化しており、また、平時におけるインフラメンテナンス需要も増加している。 これにより、土木職員、関係事業者の業務は多様化・複雑化し、災害被災状況の情報発信や道路の復旧対応に影響を与えている。 こうしたことから、本事業では、佐賀県の土木部局（本庁、土木事務所等）において、汎用性に優れ、遠隔操作が可能なドローン機器、及びドローンの操縦者（※国土交省の許可承認による飛行可能）を実装し、土木職員、関係事業者の業務の効率化・迅速化を図り、以下のような県民サービスの向上に寄与することを目的とする。 【期待される県民サービスの向上】 ① 災害被災状況の迅速な発信 ② 災害による通行止め道路の早期復旧 ③ 円滑な工事進捗・供用開始、 ④ わかりやすい鳥瞰映像・写真による情報発信等						
交付対象事業費	15,298千円						
KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①国土交通省許可を受けられるドローン操縦者数(人)	目標	0	38 (+38)	76 (+38)	114 (+38)	(+114)
		実績	0	111 (+111)	150 (+39)	154 (+4)	(+154)
	②現場確認にかかる滞在・移動時間の短縮(時間)	目標	0	▲5 (▲5)	▲50 (▲45)	▲100 (▲50)	(▲100)
		実績	0	▲5 (▲5)	▲186 (▲181)	▲283 (▲97)	(▲283)

効果検証シート【 県土整備DX推進事業(R4年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	③県民ヘドローンを活用した効果的な情報提供数(件)	目標	0	5 (+5)	25 (+20)	50 (+25)	(+50)
		実績	0	5 (+5)	25 (+20)	50 (+25)	(+50)

効果検証シート【SSPアスリート育成設備整備事業(R4年度)】

事業目的	県内施設にAIカメラやデジタル技術を活用したトレーニング機器等を導入することで、より科学的根拠に根差した県内の育成環境を整えることができ、これが普及し、定着することで、より最新の知見を活かした育成体制を構築できることになり、SSP構想の短期目標と中期目標の実現につなげること。						
事業概要	佐賀県の総合スポーツ施設であるSAGAサンライズパークにAIカメラを活用した分析機器を導入するとともに、デジタル技術を活用したトレーニング機器等を県内高校・競技団体が導入する際に支援することで、デジタル技術を活用した選手・指導者双方の人材育成に取り組む。 ①AI活用等育成設備整備事業 ・SAGAサンライズパークにAIカメラの導入 ・SAGAサンライズパークにAIによる適正スポーツ判定システム(digsports)の導入(2台) ・アスリート寮への高精度体成分分析装置(InBody)の導入(1基) ②AI活用等育成設備整備事業費補助 競技団体や県立・私立学校が行うデジタル機能が搭載されたトレーニング機器等の導入に対して、県が購入費を県が支援(補助)することで、県立学校・私立学校、競技団体にデジタル機能搭載のトレーニング機器の整備を促進する。		 ○導入後運用イメージ SAGAサンライズパーク アスリート寮 高校・競技団体 ●Digsportsの導入 最新のスポーツテスト機器 スポーツに即応したデータ分析 試合内容等を分析する機能を提供 ●AIカメラの設置 身体的・精神的な成長を把握 科学的な評価管理の機会を提供 ●Inbodyの設置 体組成から正確な身体データを把握 科学的な評価管理の機会を提供 ●デジタル機器を活用したトレーニング機器の導入 最新の科学的なトレーニングの実施 デジタル機器を活用した科学的な育成体制を支援 スポーツの普及・裾野拡大、指導力・競技力向上				
交付対象事業費	105,897千円						
KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	①SAGAサンライズパークAIカメラ活用回数(回)	目標	0	27 (+27)	135 (+108)	180 (+45)	(+180)
		実績	0	0 (0)	18 (+18)	30 (+12)	(+30)
	②digsportsでのスポーツテスト実施者数(人)	目標	0	288 (+288)	1152 (+864)	1152 (0)	(+1152)
		実績	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	(0)

効果検証シート【SSPアスリート育成設備整備事業(R4年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	③全国制覇(※)する中高生選手、チーム数 ※高校総体、各競技における全国大会(例:高校野球における春のセンバツ、夏の甲子園)での優勝を指す。(人・チーム)	目標	0	15 (+15)	20 (+5)	25 (+5)	(+25)
		実績	0	26 (+26)	35 (+9)	43 (+8)	(+43)

効果検証シート【デジタル活用ものづくり魅力発信事業(R4年度)】

事業目的	本事業を通じて、子どもたちがものづくりや県内ものづくり企業の魅力を広く認知し、県内ものづくり企業への就職率が向上すること等により、佐賀県経済の生命線とも言える「ものづくり企業」が持続的に成長し、これまで以上に佐賀県経済をけん引する、そして、ものづくり産業に携わる人材がさらに誇りと自信を持つことができる社会を実現したい。						
事業概要	佐賀県経済を支えるものづくり企業の最重要課題である人手不足の解消を図るため、デジタル技術を活用して、小中学生という早い段階から高校生までの各段階に応じた以下の3事業を実施することで、子どもたちのものづくりに対する興味・関心や魅力度を高め、ものづくりを志す子どもたちを増加させる。 ①バーチャル工場見学ツアー 感染症対策、安全性、衛生管理、情報管理等の観点から見学ができない県内ものづくり企業の工場内部を撮影し、バーチャルで工場見学ができる小中学生向けのコンテンツを制作して、ウェブ上で公開する。 ②バーチャル溶接体験 VR溶接シミュレーターを導入し、県内中学校を訪問して溶接体験教室を開催するほか、イベント出展等を通じて、幅広い子どもたちに溶接技術を体験してもらう。また、溶接技術の向上のため、高校や公設試験研究機関、職業訓練施設、県内ものづくり企業等への貸出も行う。 ③MONOSUGOBITO (モノスゴビト) 制作 近い将来、佐賀県のものづくり産業界を担う中高生をターゲットとして、ものづくりに携わる「人」(MONOSUGOBITO)にフォーカスし、ものづくりのカッコよさや楽しさ、楽しさ、やりがい等を伝える動画を制作して、ウェブ公開等を行う。						
交付対象事業費	47,725千円						
KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
①バーチャル工場見学ツアーの参加者数(人)	目標	0	1,250 (+1,250)	12,500 (+11,250)	23,750 (+11,250)	(+23,750)	
	実績	0	94 (+94)	8,435 (+8,341)	14,149 (+5,714)	(+14,149)	

効果検証シート【デジタル活用ものづくり魅力発信事業(R4年度)】

KPI	KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計
	②VR溶接シミュレーターの体験者数(人)	目標	0	900 (+900)	2,040 (+1,140)	3,180 (1,140)	(+3,180)
		実績	0	401 (+401)	1,015 (+614)	2,221 (+1,206)	(+2,221)
	③MONOSUGOBITO(動画)の視聴回数(回)	目標	0	400 (400)	9,200 (+8,800)	18,000 (+8,800)	(+18,000)
		実績	0	517,209 (+517,209)	733,755 (+216,546)	909,498 (+175,743)	(+909,498)
	④人材確保を課題とする県内ものづくり企業の割合(%)	目標	0	69 (+69)	64 (▲5)	59 (▲5)	(+59)
		実績	0	54 (+54)	62 (+8)	53 (▲9)	(+53)
	⑤県内工業系高校生の県内就職率(%)	目標	0	53 (+53)	55 (+2)	57 (+2)	(+57)
		実績	0	55.1 (+55.1)	55.4 (+0.3)	56.2 (+0.8)	(+56.2)

効果検証シート【県産品の情報発信拠点におけるテストマーケティング機能強化事業(R4年度)】

事業目的	佐賀県にとっての空と陸の玄関口における県産品情報発信拠点である「sagair(サガエア)」及び「SAGAMADO(サガマド)」において、デジタル技術を活用して県産品のテストマーケティング機能を強化することにより、県産品の販売促進を図る。																																						
事業概要	県産品情報発信拠点「sagair」及び「SAGAMADO」にAIカメラ連動レジ等のデジタル技術を実装することによりテストマーケティング機能を強化し、県産品の各事業者へフィードバックすることで県産品の販売促進につなげる。 【sagair、SAGAMADOでの取組内容】 ・データ連携可能なAIカメラ、レジ及びデータ連携システムの導入 (⇒顧客属性と購買行動の関係等を商品毎に分析できるようにする) ・デジタルサイネージの導入 (⇒データ分析に基づき、ターゲット客にあった商品情報を発信できるようにする) ・専門家によるデータ評価、商品改善・販売戦略等の助言 (⇒個々の県内事業者へフィードバック ※県内事業者が活用しやすい内容でフィードバック)																																						
交付対象事業費	33,000千円																																						
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①県内事業者へのフィードバック件数(件)</td><td>目標</td><td>0</td><td>50 (+50)</td><td>100 (+50)</td><td>100 (0)</td><td>(+100)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>54 (+54)</td><td>125 (+71)</td><td>241 (+116)</td><td>(+241)</td></tr><tr><td rowspan="2">②商品のブラッシュアップ事業への応募事業者数(事業者)</td><td>目標</td><td>0</td><td>10 (+10)</td><td>15 (+5)</td><td>20 (+5)</td><td>(+20)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>10 (+10)</td><td>30 (+20)</td><td>32 (+2)</td><td>(+32)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①県内事業者へのフィードバック件数(件)	目標	0	50 (+50)	100 (+50)	100 (0)	(+100)	実績	0	54 (+54)	125 (+71)	241 (+116)	(+241)	②商品のブラッシュアップ事業への応募事業者数(事業者)	目標	0	10 (+10)	15 (+5)	20 (+5)	(+20)	実績	0	10 (+10)	30 (+20)	32 (+2)	(+32)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																	
①県内事業者へのフィードバック件数(件)	目標	0	50 (+50)	100 (+50)	100 (0)	(+100)																																	
	実績	0	54 (+54)	125 (+71)	241 (+116)	(+241)																																	
②商品のブラッシュアップ事業への応募事業者数(事業者)	目標	0	10 (+10)	15 (+5)	20 (+5)	(+20)																																	
	実績	0	10 (+10)	30 (+20)	32 (+2)	(+32)																																	

効果検証シート【県産品の情報発信拠点におけるテストマーケティング機能強化事業(R4年度)】

KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">③商品開発・改善、新たな販路開拓に至った商品数(品目)</td><td>目標</td><td>0</td><td>0 (0)</td><td>5 (+5)</td><td>5 (0)</td><td>(+5)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>0 (0)</td><td>16 (+16)</td><td>26 (+10)</td><td>(+26)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	③商品開発・改善、新たな販路開拓に至った商品数(品目)	目標	0	0 (0)	5 (+5)	5 (0)	(+5)	実績	0	0 (0)	16 (+16)	26 (+10)	(+26)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																				
③商品開発・改善、新たな販路開拓に至った商品数(品目)	目標	0	0 (0)	5 (+5)	5 (0)	(+5)																				
	実績	0	0 (0)	16 (+16)	26 (+10)	(+26)																				

効果検証シート【行政デジタル化推進事業(R4年度)】

事業目的	県職員に特別の負担を強いることなく、外国人を含む全住民が、県に24時間いつでも問合せ必要な情報を得ることが可能となること																																						
事業概要	県HPIにAIチャットボットを設置することで、県民がいつでも簡単に県政情報入手できる環境を整備し、県民利便性の向上及び職員の業務効率化を図る。 県民からの問い合わせに24時間対応するため、佐賀県ホームページに設置するAIチャットボットを多言語化、音声認識対応とすることで、日本語での対応が難しい外国人や、キーボード入力が困難な方にも、県からの情報を「いつでも」「どこでも」入手することが可能となる環境を整備する。 本事業の実施により、時間外の問い合わせに対応するとともに、問合せの内容や回答への満足度を把握し、それに対応することで、より一層の県民満足度の向上と職員の業務軽減を図ることができる。 ・AIチャットボット機能を配置する場所：佐賀県ホームページ ・提供する情報（区分）：暮らし・子育て、健康・福祉、仕事・産業、観光・文化・スポーツ、県土・まちづくり、県政情報 ・多言語化する言語：英語、中国語、韓国語、タイ語 ・音声入力機能付加 ・広報：観光地等でQRコードを配布等																																						
交付対象事業費	8,305千円																																						
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①AIチャットボット利用者数(回)</td><td>目標</td><td>0</td><td>36,000 (+36,000)</td><td>78,000 (+42,000)</td><td>126,000 (+48,000)</td><td>(+126,000)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>104,745 (+104,745)</td><td>136,593 (+31,848)</td><td>156,967 (+20,374)</td><td>(+156,967)</td></tr><tr><td rowspan="2">②AIチャットボット利用者数(外国人)(言語)</td><td>目標</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>4 (+1)</td><td>5 (+1)</td><td>(+5)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>3 (+3)</td><td>5 (+2)</td><td>5 (0)</td><td>(+5)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①AIチャットボット利用者数(回)	目標	0	36,000 (+36,000)	78,000 (+42,000)	126,000 (+48,000)	(+126,000)	実績	0	104,745 (+104,745)	136,593 (+31,848)	156,967 (+20,374)	(+156,967)	②AIチャットボット利用者数(外国人)(言語)	目標	0	3 (+3)	4 (+1)	5 (+1)	(+5)	実績	0	3 (+3)	5 (+2)	5 (0)	(+5)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																	
①AIチャットボット利用者数(回)	目標	0	36,000 (+36,000)	78,000 (+42,000)	126,000 (+48,000)	(+126,000)																																	
	実績	0	104,745 (+104,745)	136,593 (+31,848)	156,967 (+20,374)	(+156,967)																																	
②AIチャットボット利用者数(外国人)(言語)	目標	0	3 (+3)	4 (+1)	5 (+1)	(+5)																																	
	実績	0	3 (+3)	5 (+2)	5 (0)	(+5)																																	

効果検証シート【行政デジタル化推進事業(R4年度)】

KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">③回答満足度(%)</td><td>目標</td><td>0</td><td>70 (+70)</td><td>80 (+10)</td><td>85 (+5)</td><td>(+85)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>98 (+98)</td><td>99.6 (+1.6)</td><td>97.3 (▲2.3)</td><td>(+97.3)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	③回答満足度(%)	目標	0	70 (+70)	80 (+10)	85 (+5)	(+85)	実績	0	98 (+98)	99.6 (+1.6)	97.3 (▲2.3)	(+97.3)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																				
③回答満足度(%)	目標	0	70 (+70)	80 (+10)	85 (+5)	(+85)																				
	実績	0	98 (+98)	99.6 (+1.6)	97.3 (▲2.3)	(+97.3)																				

効果検証シート【認知機能検査デジタル推進化事業(R4年度)】

事業目的	現行の紙・ペンを使ったアナログ的な検査手法からデジタル技術を導入、タブレット端末を利用した検査手法に転換し検査の効率化・検査時間の大幅短縮による受検者の利便性向上や負担軽減を図ることで、高齢ドライバーの現免許制度上の問題を改善し、悲惨な交通事故の防止、安心・安全な交通環境の実現を達成する																																						
事業概要	75歳以上の高齢者が運転免許更新をする際に受検する認知機能検査について、タブレットを導入することにより、以下のような高齢者への支援充実が可能となることで、高齢ドライバーの現免許制度上の問題を改善し、悲惨な交通事故の防止、安心・安全な交通環境の実現を達成する。 ①集合形式から個人単位での検査が可能 認知機能検査は記憶力や判断力を測定する検査であり、現在、受検者は検査員の説明を受けながら検査用紙に回答を記入して行う方法がとられており、最大20名が1会場に集合して同時に検査を実施しているが、タブレットの導入に伴い、個人単位で順次受検することが可能となる。 ②受検者の拘束時間（検査による所要時間）の短縮 運転免許センターにおける認知機能検査は、年間1,000人から1,300人程度の利用人数が見込まれ、認知機能検査の受付から検査結果の通知まで約2時間程度を要しているが、タブレットの導入に伴い、合格点に達した時点で検査が終了となり検査自体が効率化されるとともに、個人単位で順次検査を受けられることから待ち時間を含めた検査所要時間が約2時間から約40分に縮減され、高齢者の負担軽減につながる。 ③感染症リスクの低減 複数の人が集合して行う従来の認知機能検査と比べ、順次個人単位での受検が可能となるとともに、受検者の長時間の拘束時間が短縮されることにより、感染症リスクが低減される。					1. 「紙方式」から「タブレット方式」へ - 音声ガイドにより、検査は個別に自動進行します。 - 受検者は回答をタッチペンで記入します。 - 回答データは、すべてデジタル化されます。 																																	
交付対象事業費	12,465千円																																						
KPI	<table><tr><th colspan="2">KPI</th><th>事業開始前</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>累計</th></tr><tr><td rowspan="2">①受検者の利便性の向上（検査に要する所要時間）（分）</td><td>目標</td><td>0</td><td>50 (+50)</td><td>40 (▲10)</td><td>40 (0)</td><td>(+40)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>40 (+40)</td><td>40 (0)</td><td>40 (0)</td><td>(+40)</td></tr><tr><td rowspan="2">②受検者の利用満足度（％）</td><td>目標</td><td>0</td><td>60 (+60)</td><td>60 (0)</td><td>70 (+10)</td><td>(+70)</td></tr><tr><td>実績</td><td>0</td><td>94.4 (+94.4)</td><td>92.2 (▲2.2)</td><td>88.4 (▲3.8)</td><td>(+88.4)</td></tr></table>						KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計	①受検者の利便性の向上（検査に要する所要時間）（分）	目標	0	50 (+50)	40 (▲10)	40 (0)	(+40)	実績	0	40 (+40)	40 (0)	40 (0)	(+40)	②受検者の利用満足度（％）	目標	0	60 (+60)	60 (0)	70 (+10)	(+70)	実績	0	94.4 (+94.4)	92.2 (▲2.2)	88.4 (▲3.8)	(+88.4)
KPI		事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	累計																																	
①受検者の利便性の向上（検査に要する所要時間）（分）	目標	0	50 (+50)	40 (▲10)	40 (0)	(+40)																																	
	実績	0	40 (+40)	40 (0)	40 (0)	(+40)																																	
②受検者の利用満足度（％）	目標	0	60 (+60)	60 (0)	70 (+10)	(+70)																																	
	実績	0	94.4 (+94.4)	92.2 (▲2.2)	88.4 (▲3.8)	(+88.4)																																	